



AZERBAIJAN 2017
41st WORLD SCOUT
CONFERENCE
13th WORLD SCOUT
YOUTH FORUM



第13回世界スカウト ユースフォーラム派遣 報告書

平成29年8月5日～8月21日

日本代表団

木村直登 池田章浩

枝迫七海 神生柚貴

1. イントロダクション

1.1 はじめに

第11回世界スカウトユースフォーラム派遣の提言に基づき「全国ローバースカウト会議（通称；RCJ）」が2013年に設立された。RCJ設立後初めての派遣であった前回の反省を踏まえ、2015年にはRCJの下部組織として国際フォーラムチームが設立された。国際フォーラムチームにおける APRスカウトユースフォーラム参加者と連携を図りつつ、RCJの将来的な発展も加味した上でアゼルバイジャンへの派遣に望んだ。

Youth Involvement Policyのような、近年の世界会議での決議の動向を踏まえても、ユース年代の意思決定過程への参画の重要性が世界的に叫ばれている昨今である。他の連盟ではユースが中枢に参画し、理事やコミッショナーとして連盟の意思決定に関わることも決して珍しいことではない。我々の参加した世界スカウトユースフォーラムは、そのようなユース年代の意思決定参画の学びの場としての機能も備えている。

ユースの意思決定過程への参画以外にも、フォーラム中には多くの重要なトピックが取り扱われた。それらの中には普段日本で活動をしているだけでは耳にすることが無いようなものも多く含まれる。Vision 2023に掲げられている「世界のスカウト人口を1億人にする」という目標を達成するためにも、世界基準でどのようなこと動いているのかを知り、日本としてもこの達成に向けて尽力することが必要であろう。“Think Global, Act Local”とはまさにこのことである。

なお、この報告書は第13回スカウトユースフォーラムの内容についてまとめたもので、第41回世界スカウト会議については詳細に述べない。ユースフォーラムで取り扱われた議題を加味した上で、特に重要な問題に関してのみ触れることとする。



1.2 要旨

派遣に関する基本情報	
名称	第13回世界スカウトユースフォーラム 第41回世界スカウト会議派遣
期間	平成29年8月5日(土)~21日(月) 16日間
場所	アゼルバイジャン ガバラ(WSYF) バクー(WSCConf)
派遣目的	①ユースの意思決定過程への参画について理解を深めること、及びWSYF,WSCConfにおける意思決定過程に参画すること ②他国やWOSMの情報を収集し、得られた情報・知見を日本国内で発信すること。
目標	①事前に日本のスカウティングの現状についてまとめること ②様々な情報収集を通し、日本のスカウティングにおける課題・及び解決策を模索すること
派遣日程	WSYF：8月6日～10日 in ガバラ インターイベント：8月10日～13日 in シェキ WSCConf：8月14日～18日 in バクー
世界スカウトユースフォーラム(WSYF)について	
テーマ	Dream... Believe... Act...!
規模	参加者：236名 参加NSO：116
WSYFの役割	①ユースの意思決定参画についての学びの場 ②ユース・アドバイザー(YA)選出 ③世界会議の議案に関する修正案作成・議決 ④WSYF最終提言の作成・議決
メイントピックス	①Youth Involvement (ユースの意思決定過程への参画) ②Active Citizen (“よき社会人“) ③Vision 2023 (ヴィジョン2023) ④Triennial Plan (三ヶ年計画) ⑤Social Impact (社会に与えるインパクト) ⑥SDGs (Sustainable Development Goals,持続可能な開発目標) ⑦Diversity Inclusion (多様性の包括) ⑧Leadership (リーダーシップ)
決議事項	①6名のユース・アドバイザーの選出 ②主に世界会議ドキュメント4A,4B,6Aに関して提出された修正案決議 ③最終提言(Final Declaration)の作成・決議
日本代表団としての提言	①日本連盟への提言 ②事務局への提言 ③次回派遣団への推奨

特に赤枠内は報告書本文参照

1.3 目次

1. イントロダクション	
1.1 はじめに.....	2
1.2 要旨	3
1.3 目次	4
2. 派遣基本情報	
2.1 派遣情報	6
2.2 アゼルバイジャンについて	6
2.3 派遣員紹介	8
3. 派遣前の動きについて	
3.1 事前準備.....	9
3.2 調査アンケート結果.....	11
3.3 派遣団の目的・目標・方針	15
3.4 SNSでの情報発信について	15
3.5 日本派遣団ワッペン	16
4. 第13回世界スカウトユースフォーラム派遣	
4.1 派遣日程	17
4.2 ユースフォーラムの仕組み	20
4.3 ユースアドバイザーとは	20
4.4 第13回世界スカウトユースフォーラム	21
4.5 全体討議と各分科会の概要	21
4.6 フォーラム中のその他の事項について	35
5. ドキュメント情報	
5.1 使用したドキュメントについて.....	38
5.2 主要ドキュメント概要	40
○Document 4A [Draft Resolutions Proposed by the World Scout Committee]	
○Document 4B [Draft Resolutions Proposed by Member Organizations]	
○Document 6A [Strategy for Scouting Draft Objectives for World Triennial Plan2017-2020], Vision 2023	
6. 決議内容について	
6.1 フォーラム決議内容	48
6.2 最終宣言	53

7. インターベントについて	
7.1 概要	58
7.2 訪問地紹介	58
8. 第41回世界スカウト会議派遣	
8.1 概要	60
8.2 日本派遣団メンバー	61
8.3 世界スカウト会議 評価・反省	62
9. 帰国後の動きについて	
9.1 事後集会	63
9.2 派遣団の目的・目標に対する評価	64
9.3 派遣団としての評価・反省	65
9.4 派遣員所感	66
10. 日本代表団提言	
10.1 日本連盟への提言	70
10.2 事務局への提言	72
10.3 RCJへの提言	73
10.4 次回派遣団への推奨	74
11. 派遣終了後の動きについて	
11.1 報告書提出後の動きについて	75
11.2 国際フォーラムチームについて	76
12. 総括	
12.1 おわりに	76
12.2 記録写真	77
12.3 参考	78



2. 派遣基本情報

2.1 派遣情報

名称 第13回世界スカウトユースフォーラム 第41回世界スカウト会議派遣

期間 平成29年8月5日（土）～21日（月） 16日間

場所 アゼルバイジャン ガバラ カフカス・リゾートホテル（13th WSYF）
シェキ&バクー（インターイベント）
バクー（世界会議）

派遣目的：

日本のスカウトの代表としてこのユースフォーラムで世界の仲間と討議をすることによって、青年スカウトとして必要な資質の向上を図り、参加各国スカウトとの親善交歓により国際理解と友情を深め、活動においての将来へのつながりを作ること。

WOSM及び他国連盟のスカウト活動に関する考え方を日本に持ち帰ること。

フォーラム後は8月14日から18日までバクーで開催される世界スカウト会議に参加し、ユースの意見を代表団に伝えること。

2.2 アゼルバイジャンについて

公用語：アゼルバイジャン語

首都：バクー

面積：86,600km² (> 北海道 83,424km²)

人口：9,872,765人（2016年）

通貨：マナト

宗教：ムスリムが95%



アゼルバイジャンは火の国とも呼ばれており、WSYFとWSConfのロゴは”Land of Fire”をモチーフにデザインされている。豊富な天然ガスの影響で紀元前から消えることのない火があるのだ。また、火を崇拝する拝火教（ゾロアスター教）発祥の地としても知られている。また、地理的にも様々な文化が歴史的と共に交錯した場所となっており、ムスリム文化のみならずヨーロッパの文化の影響も伺い知れる。さらには、ムスリム国家においては初めて民主主義を採用した国としても有名である。とは言うものの、事実上は新アゼルバイジャン党による一党独裁制となっており、国民の不満も多いようである。

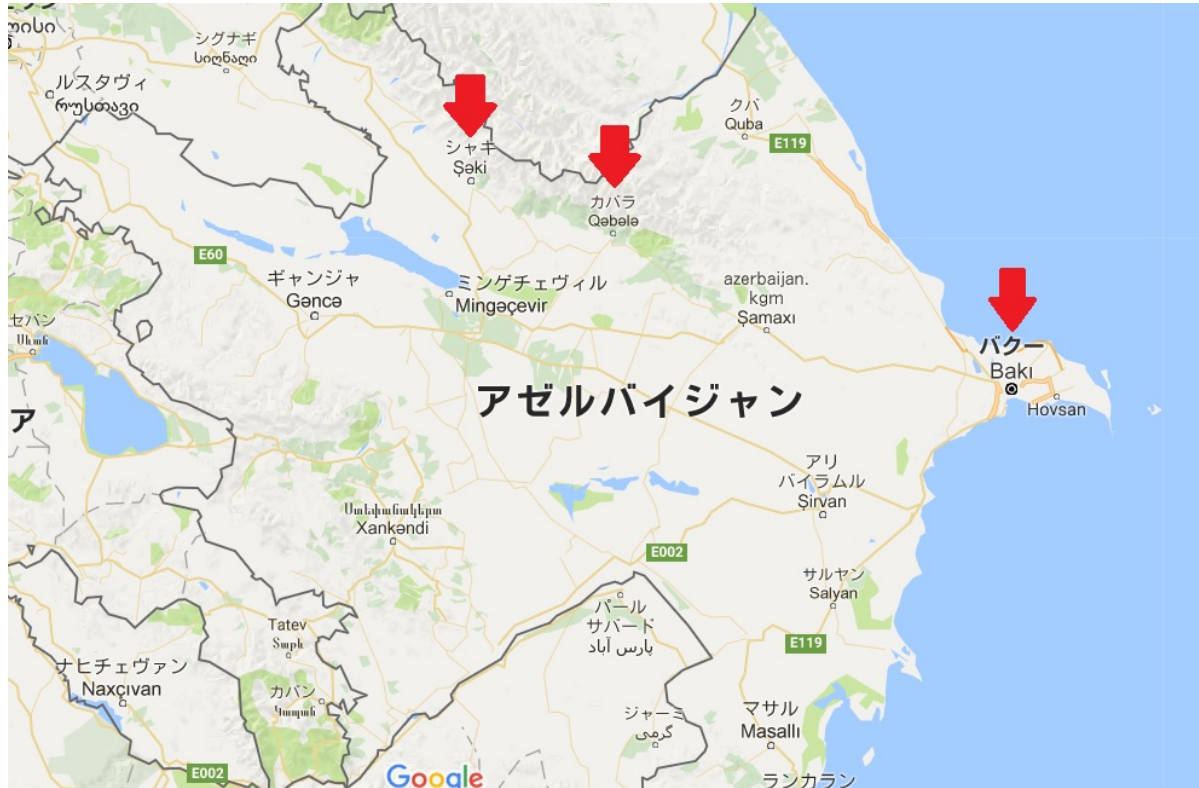


図1：アゼルバイジャン地図

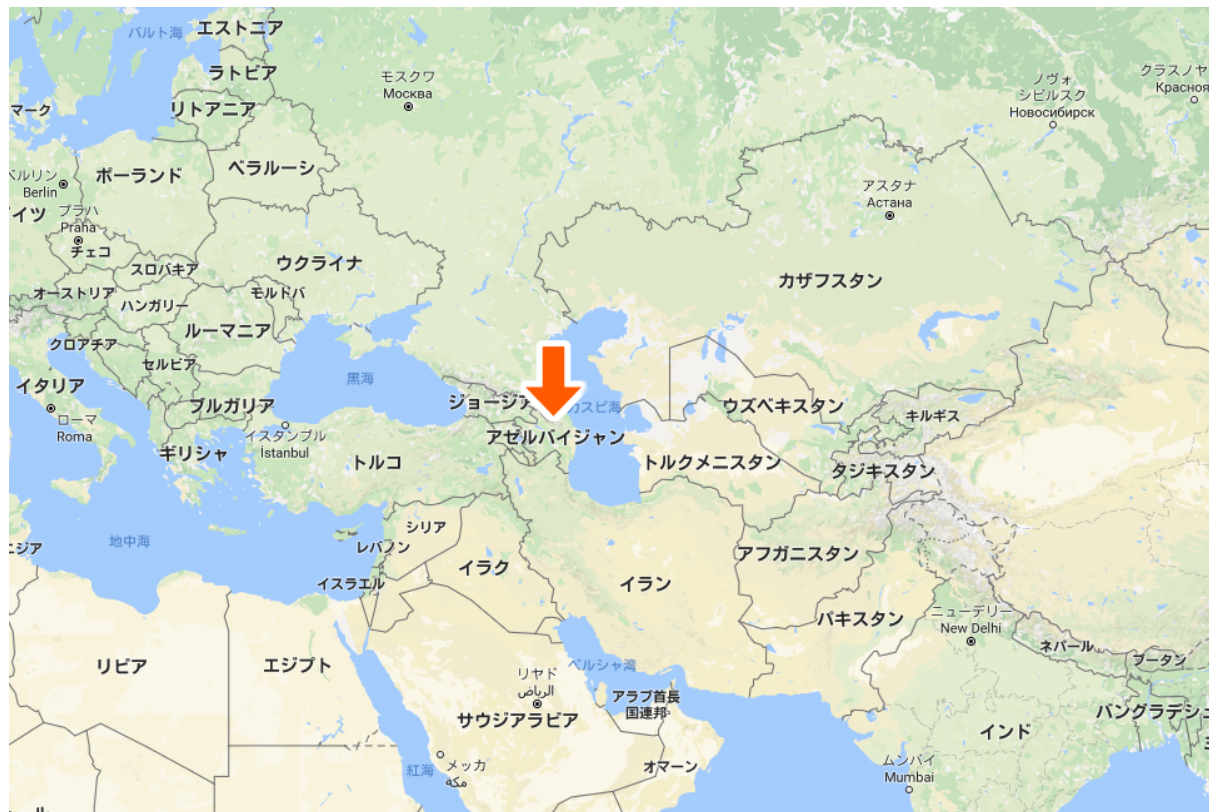


図2：アゼルバイジャンの位置

2.3 派遣員紹介



木村 直登 (Naoto KIMURA)

東京連盟 昭島第1団ローバースカウト隊
WSYF 正代表
WSCConf オブザーバー



池田 章浩 (Akihiro IKEDA)

愛知連盟 名古屋第87団ローバースカウト隊
WSYF オブザーバー
WSCConf 青年代表



枝迫 七海 (Nanami EDASAKO)

東京連盟 世田谷第10団ローバースカウト隊
WSYF オブザーバー
WSCConf オブザーバー



神生 柚貴 (Yutaka SHINSEI)

兵庫連盟 姫路第16団ローバースカウト隊
WSYF オブザーバー
WSCConf オブザーバー

3. 派遣前の動きについて

3.1 事前準備

RCJの下部組織である国際フォーラムチームと連携を取りつつ情報を収集し、以下のような内容で派遣準備を行った。また、日本連盟理事の中野まりさんおよび事務局の岩崎さんには大変お世話になった。この場を借りて改めて感謝の意を表したい。

- ・ 募集締め切り 1月20日
- ・ 面接
日時：2月5日
場所：ボーイスカウト会館
- ・ 第一回Skype会議
日時：4月21日22時
議題：自己紹介、前回派遣内容の紹介、目下の状況確認、タスクスケジュール検討、Youth Involvement Policyの確認および翻訳作業
- ・ 第二回Skype会議
日時：5月23日23時
議題：フライトについて、9日の事前訓練の確認
- ・ 事前訓練
日時：6月9日14時から6月10日11時
場所：ボーイスカウト会館世界スカウト
議題：世界スカウト委員中野まりさんによる13thWSYFの内容紹介
事務局員岩崎さんによる事務手続きについての話
今後のスケジュール確認およびタスク配分
アンケートについて
SNSでの情報発信について
派遣団ワッペンについて
- ・ 第三回Skype会議
日時：6月19日21時
議題：ドキュメントの要約と担当内容紹介
- ・ 第四回Skype会議
日時：6月22日22時30分
議題：ドキュメントの要約と担当内容紹介
実施予定の調査アンケートについての検討
- ・ アンケート内容検討締め切り、およびRCJ国際フォーラムチームとの連携
日時：6月26日

- ・ RCJ運営委員会および国際フォーラムチームcybozuにてアンケートについての確認

日時：6月28日

担当：木村

- ・ TwitterおよびFacebookページの開設

日時：6月29日

- ・ 調査アンケート、県連盟cybozuにて公開

日時：6月30日

- ・ 調査アンケート回答締め切り（233件の回答）

日時：7月7日

- ・ RCJ運営委員会にて調査アンケートの内容確認および意見募集

日時：7月8日、9日

場所：ボーイスカウト会館

- ・ 第五回Skype会議

日時：7月15日

議題：調査アンケートの結果紹介

フォーラムのアジェンダの再チェック

今後の準備内容、および今後の動きの再チェック



※当初は派遣員は5名であったが、うち1名は家庭の事情によりその後派遣を辞退した。

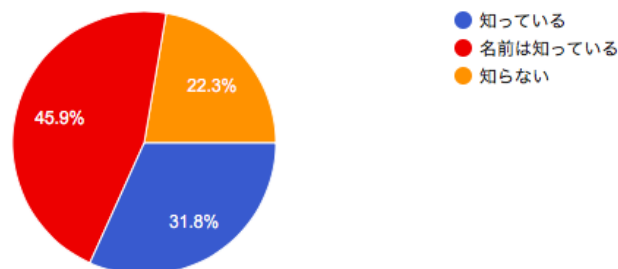
3.2 調査アンケート結果

派遣期間中の議論をより有意義なものにするため、ドキュメント内容に関連した内容の調査アンケートを実施する運びとなった。RCJ国際フォーラムチームの協力の下、ローバースカウトおよび同年代の指導者を対象にGoogle フォームにてアンケートを実施した。回答受付期間は一週間で、全部で233件の回答を得た。

-概要-

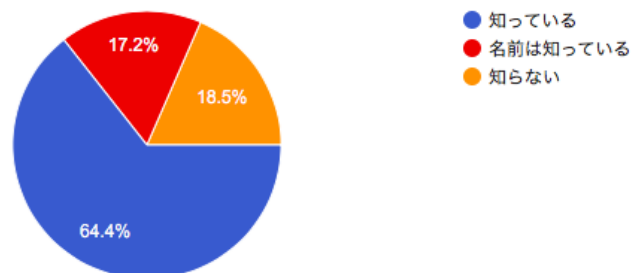
世界スカウトユースフォーラム及び世界スカウト会議についてご存知ですか

233 件の回答



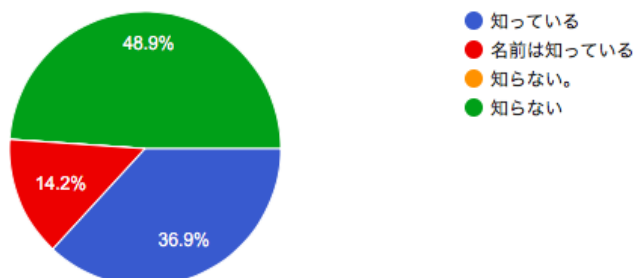
RCJとは何か知っていますか

233 件の回答



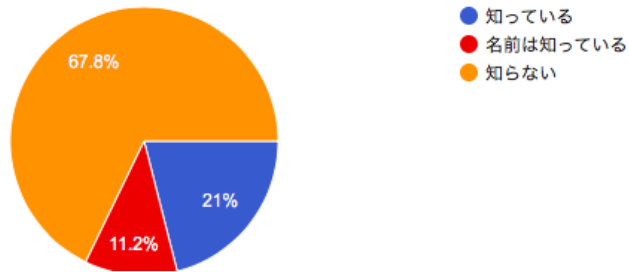
WOSMとは何か知っていますか

233 件の回答



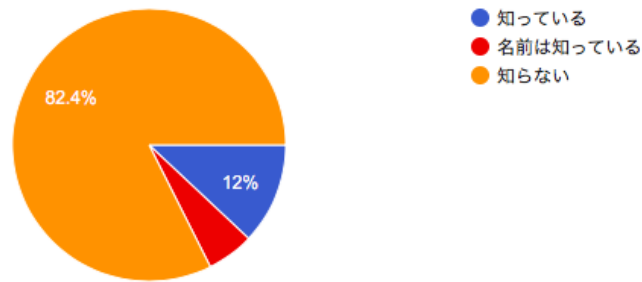
JOTA-JOTIを知っていますか

233 件の回答



SDGsを知っていますか

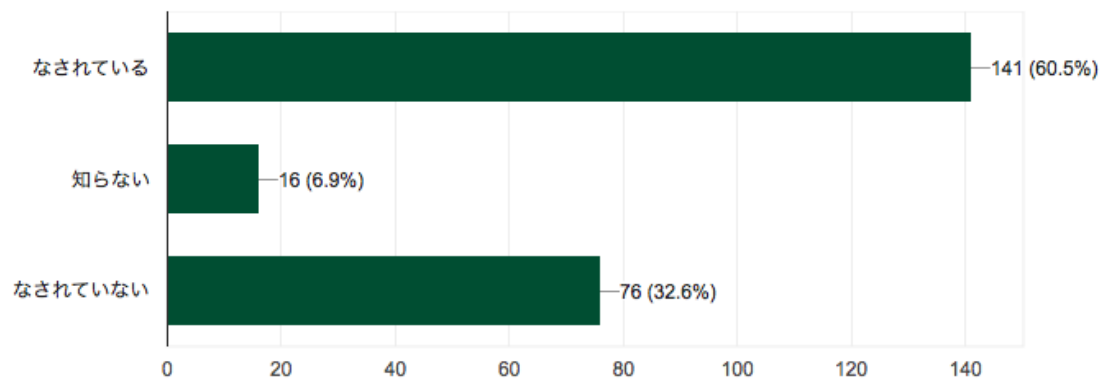
233 件の回答



-地域との交流について-

ご自身の所属する団では地域との交流は十分になされていますか

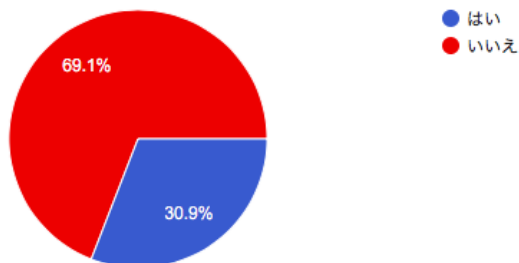
233 件の回答



-信仰について-

活動の中で、「神(仏)に対するつとめ」を意識することはありますか？

233 件の回答



・活動中のいつですか？(記述式) 回答数53件

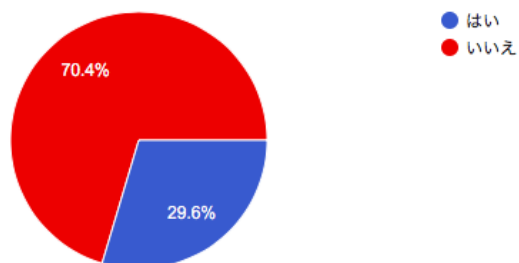
-スカウトズタウン、夜話、日々の活動

-宗教行事(ミサなど)

-食事をする際 など

「神(仏)に対するつとめ」で実践していることはありますか？

233 件の回答



・あれば、何をしていますか？(記述式) 回答数48件

-いただきます、ごちそうさまを言うこと

-お経を唱えること

-スカウトズタウン

-奉仕活動

-宗教儀礼 など

・イギリスでは無神論者のために「神(仏)に対するつとめ」を削除しようという動きがあるそうです。日本において、そのような動きが起こるとしたら、それについてどう思いますか？

(記述式) 回答数146件

-賛成する。日本はそこまで信仰心が強い国だとは思わないし、もっと言えば信仰しないも含めて信仰の自由だと私は思う。

-今後必要になってくることだと思うが、「無神論者」というある種の「信仰」を明確に持っている人のためにイギリスではそういった動きがあると思うので、日本で形だけ導入しても、単純な宗教への無関心につながってしまわないよう留意する必要があると思う。

-身近でない人が多いからこそ、興味を持つきっかけになるはずのものであると認識しているので、削除することに賛成はできません。

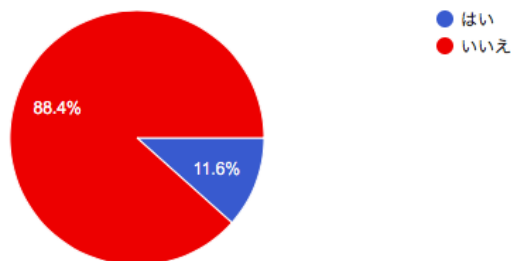
-素晴らしい。むしろ起こるべき。信仰は人に言われて持つものではない。生きている中で自分を取り巻く何か”の中にある自己の認識し信仰に目覚めるならば目覚める、そこに至らないのであればそれでいい。

-良い点は指導者、スカウトの負担が減り、一般からのイメージも開放的に変化する可能性がある。一方で、(特に日本においては)スカウト運動の根幹が揺らぐため、スカウトの活動である必要がなくなる(他の野外活動団体と大差がなくなる)のは、良くない点だと思う。
など

-ビジョン2023-

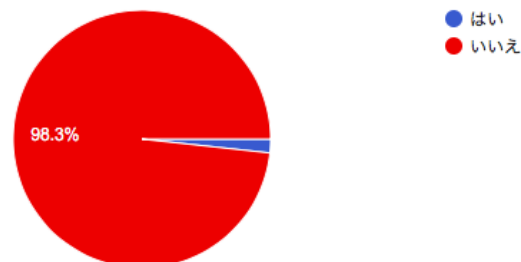
世界機構が制作しているビジョン2023およびそれに向けての三か年計画があることを知っていますか？

233 件の回答



世界機構の策定した三か年計画のような計画の実行や評価について話し合った経験はありますか？

233 件の回答



3.3 派遣団の目的・目標・方針

私たちは日本代表派遣団として目的・目標・方針を以下のように定めた。

-目的-

- 1.日本のスカウティングの現状および課題を把握した上で他国の代表と議論し、世界スカウトユースフォーラムの意思決定に参画すること。及び、ユース年代の意思決定参画についての理解を深めること
- 2.他国やWOSMにおけるユースの参画、およびローバースカウト年代についての情報を収集し、得られた情報・知見を日本国内で発信すること。

-目標-

- 1.事前アンケートを実施し、日本のスカウティングの現状についてまとめる。
- 2.ユースの意思決定過程への参画について情報収集し、日本のスカウティングにおける課題・および解決策を模索する。
- 3.SNSを駆使し、可能な限りリアルタイムで情報を発信する。

-方針-

- 1.世界レベルでのスカウティングや他国での情報を収集し、可能な限り多くの情報を持ち帰る。
- 2.収集した情報を基に、日本国内において有効に活用できそうなものを取りまとめる。
- 3.派遣で得た情報・知見を幅広く発信する。

3.4 SNSでの情報発信について

FacebookとTwitterを使用して情報の公開を行った。

Facebookはリーダー年代と世界のスカウトにまとまった情報を、TwitterはFacebookのアカウントを持っていない中高生、ボーイスカウト関係者以外の方にリアルタイムでちょっとした情報を届けるために使用した。日本派遣団の顔が映っているものや他NSOのスカウトと交流している写真を多く載せるように心掛けた。また、WOSMから指定されたハッシュタグをつけるようにした。

Toggeter：Twitterで投稿されたツイートを、まとめることができるウェブサービス、Toggeterを使用して、派遣中のツイートをまとめた

Togetter: <https://togetter.com/li/1155976>

日本派遣団Facebookページ <https://www.facebook.com/第13回世界スカウトユースフォーラム派遣-775700472609357/>

日本派遣団Twitter 「@13wsyf_jp」

3.5 日本派遣団ワッペン

前回フォーラム派遣員の木村の反省を元に、今回は日本派遣団としてワッペンの制作をしたいと事務局に申し出た。ユースフォーラム及び世界会議では様々なNSOがイベント用に制作したワッペンを交換しており、他のNSOとの良き関係を築くためのツールとしてワッペンの類は必要不可欠であると言える。そこで、事務局の岩崎さんに頂いたデザインを元に、150枚のワッペンを発注することとなった。

評価：やはり派遣団ワッペンには助けられる場面が多かった。他のNSOからワッペンを頂いた際の礼儀として、お返しできるワッペンは必要である。



4. 第13回世界スカウトユースフォーラム派遣

4.1 派遣日程

日付	場所	内容
8/6	アゼルバイジャン ヘイダル・アリエフ空港	池田、枝迫、神生はWSYFの前に行われていたアイスランドでの世界スカウトムート派遣からそのままアゼルバイジャンに向かった。また、木村は5未明に日本を出国した。 午後：ヘイダル・アリエフ空港にて合流。アゼルバイジャン連盟の手配したシャトルバスに乗り、4時間かけてフォーラムの開催地であるガバラへと向かった。
		20時過ぎにガバラのカフカス リゾートホテルに到着。 レジストレーション完了。 Let's Rock This Forum Session E-Voting導入セッション
8/7	ガバラ	午前：Welcome Session International Teamの形成 ユースアドバイザー候補者との昼食
		午後：WOSMゲーム ユースアドバイザー候補者によるプレゼンテーション 現ユースアドバイザーによる過去3年間の活動報告 International Team Time オープニングセレモニー
8/8	ガバラ	午前：デイリーオープニング セッション「Active Citizenshipとは何か」 パネルディスカッション「SDGsとは何か」
		午後：セッション「スカウト活動におけるリーダーシップとは」 ユースアドバイザー選挙 WOSM三ヶ年計画2017-2020について International Team Time アゼルバイジャン ファイヤー ナイト
8/9	ガバラ	午前：デイリーオープニング ブレイクアウトセッション マーケットプレイス(展示会)

		午後：ワークショップ「修正案の書き方について」 決議事項に関する修正案についての検討 International Team Time カルチュアル ナイト
8/10	ガバラ	午前：デイリーオープニング セッション「Social Impactを与えるためには」 NSOごとの会議時間 決議事項採決
		午後：決議事項採決（22時まで） 閉会セッション 閉会式
8/11	移動	午前：バスにて移動。ガバラからシャトルバスにて3時間ほど
	シェキ	午後：シェキ観光（シルク販売店、ドライフルーツ販売店、隊商宿 「キャラバンサライ」、宮殿） MARXAL Resort & Spaにて滞在。マカオ、香港、シンガポールのスカウトと部屋を共有。
8/12	アプシェロン・ペニンサーラ	シェキからバクー付近のカスピ海までバスにて6時間ほど移動。17時にビーチに到着。テントにて宿泊。
8/13	バクー	アプシェロン・ペニンサーラからバスにてバクーまで移動。世界スカウト会議代表団と合流。
8/14		第41回世界スカウト会議開幕。池田を青年代表とし、世界会議に参加。 オープニングセッション 新WOSMメンバーの紹介 第13回スカウトユースフォーラムの報告 World Scout Showcase オープニングセレモニー
8/15		第23回世界スカウトジャンボリー（日本2015）報告 2014-17収支報告 ブレイクアウトセッション(SDGsなどDraft Resolution関連) ブレイクアウトセッション(WOSM憲章改正関連)

		Vision 2023の進行報告 世界スカウト委員立候補者プレゼンテーション インターナショナルイブニング
8/16	バクー	第25回世界スカウトジャンボリー立候補地プレゼンテーション WOSMとWAAGSの連携報告 第15回世界スカウトムート (アイスランド2017)報告 カandelシュティーク国際スカウトセンター報告 第2回世界スカウト教育議会報告 Messengers of Peaceブレイクアウトセッション WOSM憲章改正について マカオの正式加盟国としての承認決議 第25回世界スカウトジャンボリー開催地投票 世界スカウト委員選挙投票 JOTA-JOTI報告 アゼルバイジャンの夕べ
8/17		国連「HeForShe」、KAICIID、AISECの紹介 第41回世界スカウト会議決議事項採決 フリーイブニング
8/18		表彰 (ブロンズウルフ章) 第16回世界スカウトムート紹介 第42回世界スカウト会議開催候補地プレゼンテーション 第42回世界スカウト会議開催地選挙 第24回世界スカウトジャンボリー紹介 グループごとの評価・反省会 閉会セッション、閉会式
8/19		世界スカウト会議代表団と別れ、バクー観光。 夜に木村がアゼルバイジャン出国
8/20	バクー ドーハ	池田・枝迫・神生：バクー観光の後出国。北京経由。 木村：ドーハ着。乗り換え20時間の間ドーハに滞在。
8/21	東京	池田・枝迫・神生：羽田空港着 木村：成田空港着 解散

4.2 ユースフォーラムの仕組み

スロベニアで2014年に行われた第40回世界スカウト会議で更新版World Scout Youth Involvement Policyが採択された。このPolicyのBasic Principleには、『スカウティングは成人の支援がある青少年のための運動であり、成人に管理された青少年の運動ではない。このようにしてスカウティングは熱意と経験をもって、青少年と成人の属する学びのコミュニティのためにポテンシャルを提供する』と記載されている。世界スカウト会議の直前に行われる世界スカウトユースフォーラムの機能として、世界スカウト会議のドキュメントについて議論を重ね、修正案を提出する事や、世界スカウト委員の行う会議に対して、青年の代表として意見を述べる役割であるYouth Adviserの選挙を行う事、更にはスカウティングに従事する青年の意見としてフォーラム宣言をまとめることを通して青年の意思決定に加わる能力を発達させる事が挙げられる。ユースフォーラムで取り扱われるWOSMの施策などに関するセッションを通し、参加者の成長とその参加者の各国連盟での活躍が期待されているのだ。投票権は各国連盟に2票ずつ与えられ、意思決定も国ごとに行う。討論は様々な年齢、性別、地域のスカウトと行い、特にインターナショナルチームごとに文書を取り扱う。



4.3 ユースアドバイザーとは

青少年の意思決定参画を促進するため、WOSMではユースアドバイザー制度を採用している。ユースアドバイザーは任期中に世界委員会への助言などの役目を担っている。ユースアドバイザーは任期が3年であり、ユースフォーラムにて6名が選出される。6名のうち2名はWSYF企画委員会に加わる事となる。ユースアドバイザーの任務の詳細に関しては以下の「現ユースアドバイザーによる過去三年間の活動報告」を参照。

4.4 第13回世界スカウトユースフォーラム

-概要-

テーマ：Dream...Believe...Act!

参加者：236人（前回176人）

参加NSO：116（前回72人）

フォーラムから世界会議への参加者：96%

今回の第13回世界スカウトフォーラムでは、テーマである「Dream...Believe...Act!」によってフォーラムでの重要な役割を意思決定段階においてスキルを発揮することで青少年に力と刺激を与えることを目標とした。今回のフォーラムを通じて、TwitterやFacebook等のSNSにおいてハッシュタグ#ScoutFourumを設置したが、400万回を超える投稿があり、運動を通じた若者のデジタルコミットメントの成功が立証された。インターナショナルチームが重要視され、グローバルな見解と公平な決定を提供することが主眼とされた。



4.5 全体討議と各分科会の概要

-8月6日-

”Let’s Rock This Forum” セッション

会場に早めに到着した参加者を対象として、アイスブレイキング的な要素を含めてセッションが展開された。様々なブースが出展され、他国の参加者と交流する機会が提供された。しかしながら日本派遣団は比較的遅く到着したため、全てのブースを回ることはできなかった。

・ E-Voting導入セッション

今回のフォーラムでは初めての試みとして、E-Votingが導入された。E-Votingでは派遣団に一つずつラップトップが用意され、ウェブ上に設置されたプラットフォームから投票を行う。その導入のセッションとして仕組みと手順の紹介、および投票のテストが行われた。

-8月7日-

・ ウェルカムセッション

参加者全員が集う、プレナリーホールでの一番最初のセッションである。導入的な要素が非常に強い。以下のようなものが導入として紹介されたが、その中でも重要なのが議決のルールの採択である。ここで採択したルールに基づき、この後のフォーラムが進んでいくこととなる。

- ・ Meditationとして動画の視聴
- ・ 同時通訳システム説明
- ・ 前回世界スカウトユースフォーラム議長による歓迎スピーチ
- ・ 議決のルール採択
- ・ 議題の提示と採択
- ・ 目的、内容、作業方法の提示
- ・ 校正委員会と投票計算係の承認
- ・ 中野まりさんによる、世界スカウト委員の紹介
- ・ 第13回世界スカウトユースフォーラム企画委員会の紹介

・ International Teamの形成

意義・目的について

スカウト教育法のチームシステムに則り、ユースフォーラム期間中はInternational Teamが組織される。地域や性別が考慮された10人程度のグループで、1日の振り返りと分かち合いを行うだけでなく、世界スカウト会議の文書の修正案を検討したり、フォーラム宣言の草稿を考え、他のInternational Teamの提案にセカンドする機能を持つ。International Teamでの議論が不可欠な事からInternational Teamの発表後はアイスブレイキングツアーを行った。チームメイトの国の言葉で挨拶を覚えるゲームや、見つめ合いながら笑わずにクッキーを食べるゲームなどを行った。国を超えてバググラウンドの異なるスカウト同士が仲良くなりながら、それぞれの経験から出る意見を戦わせて議論し、修正案や提言文の草稿がより質の高いものにできるように工夫された仕組みであった。



・ ユースアドバイザー候補者との昼食

ユースアドバイザーに立候補しているスカウト達と共に昼食を取った。基本的にはInternational Teamでまとまって昼食を取っているテーブルに候補者が代わる代わる訪れ、質問を受け付けるといった形式であった。

評価：

-良かった点-

- ・ 候補者と直接話し合う機会、また直接質問をする機会を得たこと

-改善点・今後への提案-

- ・ 候補者達がテーブルを回る順番などは指定されていなかったため、テーブルに来ない候補者がいた。また、時間配分もあまり計画されていなかったために最終的に時間が足りなくなり、テーブルに来た候補者よりも来なかった候補者の方が多かった。
- ・ 候補者のプレゼンが終わってからこのような場を設けた方がより具体的な質問をすることができると思われる。

・ WOSMゲーム

参加者がどれだけWOSMに関連する知識を有しているかをチェックするゲームを行なった。2つのInternational Teamを組み合わせ、一人のフィシリテーターを中心にグループを作成した。

WOSMゲームではカードにWOSM関連の問題が記載されており、正解するとカードを手に入れることができる。1ゲーム中に2枚カードを手に入れた参加者は次のステージに進めるが、取得できなかった参加者はWOSMについて導入セッションを受けなければならない。

[問題例]

- ・ Youth Involvement Policy が採択されたのはいつ、どこでか
- ・ 第一回～第三回の世界ジャンボリーの開催地を述べよ
- ・ World Scout Youth Programme Policyが採択されたのはいつ、どこでか

評価：

-良かった点-

- ・ WOSMに関連する知識を復習することができた

-改善点・今後への提案-

- ・ 問題が難しすぎた。問題になっっている決議文等の存在は知っていても採択年までは答えられないケースが目立った。全体として難易度が高かったようで、他国の参加者も苦戦していた。

・ ユースアドバイザー候補者によるプレゼンテーション

候補者によるプレゼンテーション。拍手や歓声を出すことは制限され、粛々とした雰囲気の中で淡々と進行していった。

立候補者の情報に関しては以下のドキュメントを参照

<https://drive.google.com/open?id=0B3W6nvxtNHjqekpkWHpuTjdyTEU>

・ 現ユースアドバイザーによる過去三年間の活動報告

現ユースアドバイザーが登壇し、前回のWSYFからの三年間で行ったことが報告された。

- ・世界スカウト委員との会議
- ・ワークストリームのスカウティングの革新への取り組みとして、ムートのふりかえり、WSYFとWSCのふりかえりなど
- ・国際スカウトイベント(23WSJ、15WSM、地域スカウト会議)の手伝い
- ・13WSYFと41WSCの企画 を行ったとのことだった。

<https://drive.google.com/open?id=0B3W6nvxtNHjqcThQcEQzXOpSZ0k>

・ International Team Time

自分と違う相手を認め、尊重し合うために必要なことの一つに対話がある。

自分自身を振り返って、1日をどのように過ごせたかをふりかえり、仲間と分かち合う時間として機能する。また、アドバイザーとして成人が加わることで世界スカウトユースフォーラムの運営に対して参加者の意見を伝える役割も兼ねている。

・ オープニングセレモニー

プレナリーホールで行われた。アゼルバイジャンの伝統的な踊りで開幕し、世界委員やYAから開会宣言があった。その後は動画を見たり、アゼルバイジャン連盟で特技を持つ人が披露したりと楽しい会となった

-8月8日-

・ デイリーオープニング

前日の振り返り、Meditationとして動画の視聴、1日の流れについて確認、諸連絡が行われた。動画の効果としては、①関心をもたらしやすい②集中しやすい③視覚と聴覚に訴えかけるなどが挙げられるという説明があった。

・ セッション「Active Citizenshipとは何か」

2017年5月で世界中で話題になった、ネオナチに制服を着て立ち向かったチェコの女子スカウトを招き、Active Citizenshipとは何かを考えた。何故彼女が政治に興味を持ったのか、何故彼女がスカウトの制服を着てネオナチの前で自分の意見を表明したのか、彼女自身のスピーチによって明らかになった。

彼女の行動については稀に反論も見られる。というのも、スカウト運動は非政治的な運動とされているため、彼女の行動がこれに反するのではないかとの見解が存在するためである。これに対しては、確かにスカウト運動自体は非政治的ではあるものの、それに参画する個々人には政治的思想があって然るべきであるとの回答が主流となっている。以下に彼女のことを取り上げた記事のURLを記す。

<https://www.theguardian.com/world/2017/may/04/girl-scout-confronts-neo-nazi-at-czech-rally>

その後、彼女のスピーチ内容を踏まえた上でActive Citizenとは何か、グループごとに討議した。Active Citizenについて考える上でもInstitutional LevelやPersonal Levelなど、様々なレベルが存在すること確認され、Active Citizenになるために重要なライフスキルについても考察をした。

・ パネルディスカッション「SDGsとは何か」

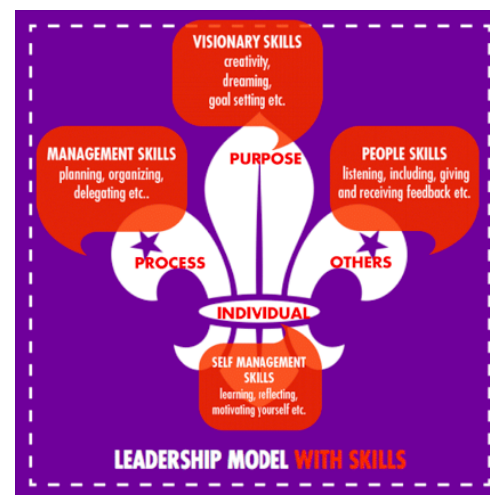
持続可能な開発目標（SDGs）（PDF）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標である。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、スカウティングとしても積極的に取り組んでいる。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/



・ セッション「スカウト活動におけるリーダーシップとは」

スカウト活動においてリーダーシップという概念は非常に重要である。リーダーというのは権力や地位、年齢素質に関わらず誰もがなることができる。スカウト活動におけるリーダーシップに関するスキルの図は以下のものであり、大きく4つに分けられる。まず個人レベルが、自身で学び、反映し、自身のモチベーションを上げるスキル。それを踏まえて過程のレベルで、計画し、運営し、代表するスキルと他者との関係のレベルで、聞き、巻き込み、与えてフィードバックを共有するスキルに発展させる。そうして最終的に目的のレベルにおいて、創造、夢、目標設定のスキルにつながる。このスパンを繰り返して、リーダーシップを学ぶのである。



・ ユースアドバイザー選挙

E-Votingにより投票を行った。それぞれの派遣団が12票(一人の候補に最大2票)を持ち、投票した。なお、日本派遣団として投票した候補者はV(それぞれ2票を投じた)で明示してある。ジェンダーバランスと地域バランスを考慮しての投票の意思決定を行った。投票結果は以下の通りである。

1. Mr. Julius KRAMER (Sweden) 172 votes V
 2. Ms. Diana CARRILLO TIBURICO (Mexico) 156 votes
 3. Ms. Amal RIDENE (Tunisia) 152 votes V
 4. Mr. Martin MEIER (Liechtenstein) 135 votes
 5. Mr. Mori Chi-kin CHENG (Hong Kong) 120 votes
 6. Mr. Edgar MARUMBU (Kenya) 98 votes V
 6. Mr. Ram Prasad BHATTARAI (Nepal) 98 votes V
-
7. Mr. Rafael Simoes (Portugal) 92 votes
 8. Mr. Latame Komla ADOLI (Togo) 82 votes
 9. Mr. Tiago LACERDA QUEIROZ CARVALHO (Brazil) 82 votes V
 10. Mr. Andriy KOLOBOV (Ukraine) 67 votes V
 11. Mr. Mouath BIN NUJAYFAN (Saudi Arabia) 61 votes
 12. Mr. Mohammad ODETALLAH (Jordan) 49 votes
 13. Mr. Hamza EL HAMMOUMI (Morocco) 28 votes

Rules of Procedureに従い、投票結果の上位6名をユースアドバイザーとして選出することになっている。しかしながら、今回は6位のMr. EdgarとMr. Ramが票数が同じになるとユースフォーラムの歴史において前代未聞のことが発生した。Rules of Procedureに定められている文章を再確認し、同表の場合には生年月日を考慮して若い方の人物を選出することを確認した。結果、誕生日が若干遅かったMr. Edgarをユースアドバイザーとした。

結果、ユースアドバイザーは以下の6名となった。

- ・ Mr. Julius KRAMER (Sweden)
- ・ Ms. Diana CARRILLO TIBURICO (Mexico)
- ・ Ms. Amal RIDENE (Tunisia)
- ・ Mr. Martin MEIER (Liechtenstein)
- ・ Mr. Mori Chi-kin CHENG (Hong Kong)
- ・ Mr. Edgar MARUMBU (Kenya)



・ WOSM三カ年計画2017-2020について

WOSMの次期三ヶ年の計画についてのプレゼンテーションが行われた。その後、紹介された内容に基づき、分科会でのディスカッションの時間が設けられた。テーマごとにWOSMの職員や世界スカウト委員がファシリテーション及び内容の紹介を担当し、参加者は興味のある分科会へ参加する形式であった。

※WOSM三ヶ年計画2017-2020についての詳細は本報告書の項目5.2を参照。

・ International Team Time

・ アゼルバイジャンファイヤーナイト

常設の屋外ステージの前の焚き火でを囲み、アゼルバイジャンの伝統的なお菓子（もちるん甘い）を食べながら、伝統的な衣装を着た男女がダンスを披露を観賞した。特にボイスパーカッションの世界チャンピオンが行ったパフォーマンスはアツいアゼルバイジャンナイトの盛り上がりを加速させた。アゼルバイジャン語を英語で直訳するとしばしば奇妙な表現になることがあるらしく、英語に直訳した詩のような言葉がアゼルバイジャン語で何を表すかというクイズゲームが行われ、正解者にはバナナやリンゴが送られた。途中からは全員が好きに踊る雰囲気になったため、途中で抜けたスカウトも少なくなかった。日本人は池田が踊り疲れたタイミングで全員その場を離れた。



-8月9日-

・ デイリーオープニング

・ ブレイクアウトセッション

参加者がそれぞれの希望に基づいて参するセッションを選ぶ。全部で11のセッションが用意され、一人合計3つのセッションに参加した。それぞれのセッションは本フォーラムのメインピックであるActive CitizenshipやYouth Engagementなどに関連づけられており、それらのトピックについての理解を深める場としての役割を果たすものであった。



• UReport

プレゼンター：Mr. Baskouda Shelley 報告者：枝迫

概要：

UReportとは？：SNSを利用して、世界中からアンケートを集めるシステム。

参加方法：FacebookのUreportのFacebookページにいいね！をする。→Messenger を送る。→居住地、性別などの情報に答える。→たまに送られてくるアンケートに答える。

何のために協力を要請しているの？：・自分の国で起きていることについて意見を述べる

- ・結果と情報を使用して市民の意識を高め、向上させる
- ・自分の国を改善するために全国キャンペーンに参加する
- ・他のU-Reportersと何が起きているのかを共有する

<https://ureport.in/>

• The Art of Negotiation

プレゼンター：Mr.Dong Wook Lee 報告者：木村

概要：“交渉とは勝者と敗者を決定せしめるような行いではない”という前提の下、交渉の方法についてのプレゼンが展開された。まず、BATNA(Best Alternative To a Negotiated Agreement)という、交渉におけるプレイヤーの所謂“最低妥協ライン”の学術的分析方法を紹介し、実際の交渉の様子を分析した。分析資料として、“Transformers Bobby B baby”という映画の一部が紹介され、登場人物たちのやり取りの中でどのように交渉が行われ、BATNAに到達していくかが分析された。内容は非常に学術的かつ経済学的な族面が強く、David LaxとJames Sebeniusによる“交渉者による価値の創出”という理論の紹介などが行われた。関連してゲーム理論における囚人のジレンマなども紹介され、どのようにしてゼロサムゲーム的ではない、価値の創出が可能な交渉が可能になるのかという学術的導入がなされた。

• Inspiring & Managing Volunteers

プレゼンター：Mr.Stephen 報告者：神生

概要：ボランティア活動における問題点

こちらも講義形式。席の両隣の人と3人でグループを組ませて自身のボランティア活動で辛かった経験を語った。それが終わると、挙手制でボランティア活動においての問題、その原因を列挙させていった。全体的に時間が押していたこともあり、文化やジェンダー、考え方の違いや資金面、マネジメント能力の欠如というような原因がいくつか列挙された時点でセッションは終了した

• Project Management

エントリーに不具合があり、参加不能だった

• Diversity & Inclusion

エントリーに不具合があり、参加不能だった

・ Better World Framework

プレゼンター：中野まりさん 報告者：枝迫

WOSMが提供しているプログラムの背景、どのようなプログラムなのか、どのようにすれば参加できるのかなどのプレゼンテーションを受けた。

①スカウティングにおける青少年プログラムの定義

- ・若者の役に立つことができるもの(What)
 - ・スカウティングの目的を達成するために作られたもの(Why)
 - ・スカウト教育法を通して経験された学習機会(How)
- の総体である。

②若者+スカウト教育=Active Citizen

③Better World Frameworkの目的

- ・スカウトが社会的影響を発揮するのを助ける。
- ・スカウト、スカウト関係者以外の人々を刺激するために、成功の話を分かち合うように奨励する。
- ・Active citizenになるためには、多くの側面の1つを強化する。
- ・青少年プログラムと連携した集団的かつ総合的な取り組み
- ・地球規模の影響をもたらすための地域行動を促す。
- ・スカウトの共通の取り組みに参加するコミュニティメンバーを組み込む。

④Better World Frameworkとは？

一般的な目的×(スカウト+地域の関係者)=Better World Framework

⑤プログラム

以下の3つの分野に分けられている。



WOSM WORLD PROGRAMMES(WOSMの世界プログラム)

☆SCOUTS OF THE WORLD AWARD

ボーイスカウト日本連盟では導入されていないプログラムである。スカウトやスカウト以外のすべての若者に地球規模の問題を考え、地域社会で行動する挑戦のことで、によって世界スカウティングによって提供された若者のための唯一の章。この章には、地域社会をより良いものにするための献身が必要。完了すると、行動を起こすために他人にインスピレーションを与えるネットワークの一部になる。

以下はこのプロジェクト内で外部団体と連携しているものの例である。



☆Messengers Of Peace(メッセンジャー・オブ・ピース)

ボーイスカウト日本連盟でも導入されているプログラムである。

https://www.scout.or.jp/for_members/program/messengers_of_peace/index.html

以下はこのプロジェクト内で外部団体と連携しているものの例である。



☆World Scouting Environment Programme(世界スカウト環境プログラム)

ボーイスカウト日本連盟でも導入されているプログラムである。

https://www.scout.or.jp/for_members/program/WSEP/index.html

以下はこのプロジェクト内で外部団体と連携しているものの例である。



- **It' s Good and I can Prove it**

プレゼンター：Ms.Maire 報告者：神生

概要：social impact in Scoutingについてのセッション

主に講義形式でスカウト活動が社会においてどのような影響をもたらすかを話し合った。序盤は講師による解説を行い、中盤にスカウトが挙手して自分のスカウト活動の中で社会にどういった影響を与えたかを発表していったそれが終わった後、講師によるプロジェクターを使用した解説が再び行われた。スカウトの体験としてはボランティア活動が多かったが、その中でも様々な種類があり、地元の子供たちに体験会を通じてスカウティングを教えたという直接的なものから、学校や地元機関と協力して地元の子供たちを巻き込んだ奉仕活動を企画したり、外で遊ぶ機会を作ったような間接的なものまであった。解説の中でスカウト活動が社会に与える影響には段階があることが述べられ、主に家庭、学校等、地域社会、一般社会へ浸透していくということが説明された。

- **Youth for Change Modules**

プレゼンター：Ms.Diana Neil 報告者：木村

概要：ユースの力で何かを変えていくことに焦点を当ててセッションが展開された。まず、我々のユースそれぞれのバックグラウンドが異なり多種多様であることが再確認され、その中でなぜユースの力が求められているのかということについて議論した。

地域やNSOなど様々なレベルにおける意思決定プロセスにおけるユースの参画の必要性が説かれた後、我々の世代を特徴付ける15の要素について考察し、「ユースが変化をもたらすために必要なスキルとは何か」というテーマの下でディスカッションを展開した。セッションは、「様々なスキルを駆使する中で我々の運動の目的を忘れずに進んでいけば、ユースの力で変化をもたらすことができるだろう」という内容で締めくくられた。

- **Sustainability**

プレゼンター：Mr. Maeed 報告者：池田

歴史上の人間活動が地球に対してなにをしてきたのか。

動画やHPの紹介をもとにSustainabilityについて考えた。

<https://www.youtube.com/watch?v=WfGMYdalCIU>

その後、それぞれの国で行っているSustainabilityに対する取り組みについて4~5人に分かれて議論した。日本におけるSustainabilityとして、ゴミ分別の多さを海外スカウトから指摘された。

最後に、ポストイットにこれから個人としてどうSustainabilityを意識するかという宣言を書き出し、壁に貼って解散した。

参考：<http://www.carbonmap.org/>

- **Partnership**

エントリーに不具合があり、参加不能だった

• Fundraising

プレゼンター：Ms. Lymp 報告者：木村

概要：「資金調達とは単純にお金を乞うことではなく、相手との信頼関係を築くことである」との前提のもと、資金調達の具体的な手法についての紹介が行われた。セッション参加者の中には、過去にNSOなどにおいて資金調達の経験があるスカウトも多くいたため、具体的な事例も多数挙げられた。

資金調達は主に5つの種類に分けられる。すなわち財団、政府、個人、会社、自らによる利益創出、の5つである。それぞれにおいて具体的なアプローチ法は異なるため、採用する資金調達法によって戦略的アプローチを練る必要がある。例えば会社からの資金調達を目指す場合、会社にとってどれくらいの利益（例えば広告による利益、イベント参加者に広告をすることによってどのくらいの人々に効果的にリーチできるのか）などを相手側に示す必要がある。このような具体例の元でセッションは展開されていったが結論としては、まずどのような資金調達法があるのか、ネットなどを駆使して可能な限り幅広く調べることが大切であるとのことであった。

• マーケットプレイス（展示会）

NSO内におけるユースのプログラムなどについて有志でブースを設置する展示会が開催された。韓国およびポーランドによる次期世界スカウトジャンボリー誘致立候補のブースの他、チュニジアでのプログラム例など全部で10ほどのブースが設置された。中でも特に参加者を注目を集めていたのがギリシャによる難民受け入れのプロジェクトである。スカウティングの枠組みを超えたレベルでの社会問題への取り組み事例が示され、多くの参加者が興味を示すと共にプロジェクトメンバーの多大なる努力・社会問題への貢献を讃えていた。



・ ワークショップ「修正案の書き方について」

Draft Resolutionに対する修正案の説明の書き方について紹介があった。詳細は以下。

・ 決議事項に関する修正案についての検討

International Teamに別れ、各国のスカウトが持ち寄ったDraft ResolutionもしくはW OSMの三カ年計画に対する修正案について意見交換をした。その後、ワークショップで紹介された修正案の書き方に従い、International TeamごとのAmendment Planを作成し、それに対する他のチームからのSecondを集める作業となった。例えばフィンランドはジェンダー・イークアリティーに主眼を置き、大人（世界会議代表）との連携の上で連盟内でDraft Resolution修正案を入念に準備して来ていた。そのような修正案がそれぞれのInternational Teamにて紹介され、チームメイト達との話し合いを経て、チームとしての修正案へと推敲されていくのである。しかしながら議案によっては激しい議論を巻き起こしていた。特に難民受け入れとスカウト活動との関係性についての議論は熾烈を極め、賛否両論別れていた。難民受け入れ自体には賛成であるものの、プログラムとしてそれを取り込むことを強制すべきであるか否かが論点であった。このような議論ではInternational Team内で十分な賛同が得られなかったケースもあるが、その中でも十分なチームメイトの賛同を得ずにDrafting Committeeに修正案を提出するケースも散見された。これはInternational Teamの意義を軽視した非常に残念なケースであった一方で、一部のスカウトが自国の推奨する修正案に力を入れすぎたためにチームが空中分解していたのも事実である。この点に関しては次回フォーラムでの改善が期待される。

・ カルチュアラル ナイト

各NSOが名産品を持参して振舞ったり、民族衣装を着用したりしていた。

日本派遣団は事前に情報を手に入れることができず、まったく準備をして行かなかった。中野まりさんから「キットカット」と「ベビーカステラ」をいただき、日本のお菓子として提供することができた。まりさん、ありがとうございます。民族衣装も着物などは持参しておらず、第15回世界スカウトムート派遣にてメキシカンハットにスワップした神生を除き法被を着用した。

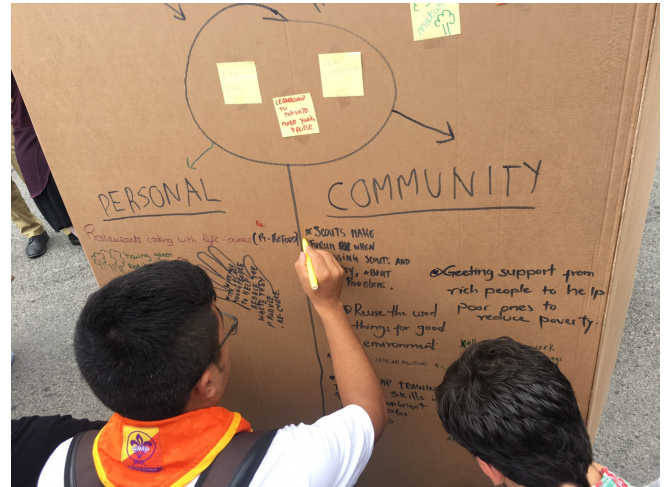


-8月10日-

・ デイリーセッション

・ セッション「Social Impactを与えるためには」

スカウト活動を通じて社会に影響を与えることが出来る。それは大きく3つのレベルに分けて行われる。まずは個人レベル。スカウト活動を通して自身が肉体的、精神的、学術的に成長することによって社会に影響を与えているということが出来る。二つ目はコミュニティレベル。これは地域でのリーダーシップやボランティア活動を通じて社会に影響を与える。尚個人レベルとコミュニティレベル同時に行われることもある。最後は学術レベル。これは環境問題や教育方針など世界レベルで社会に影響を与えることが出来る。



・ NSOごとの会議時間

各NSOの代表団で集まり、それぞれの議題に対しどのように投票するかを検討を行った。日本派遣団は代表1名に議決を一任せず、全員で意見を出し合った。

・ 決議事項採決

以下、フォーラム決議内容にて詳しく言及。ここでは省略。

・ 閉会セレモニー

決議が長引いたため、セレモニーらしいことはできず、世界スカウト委員長と事務局長の話を聞いてすぐに終わってしまった。

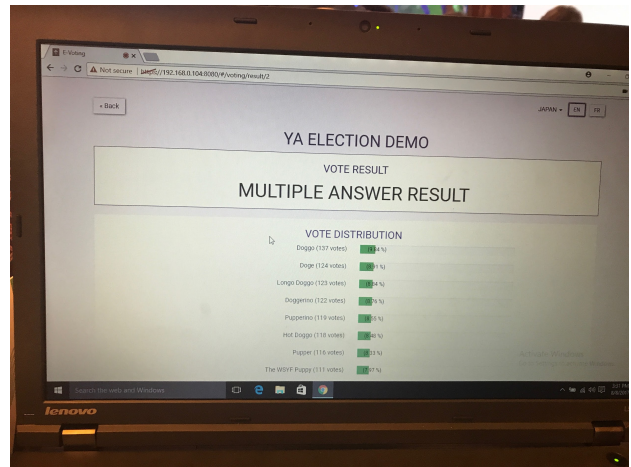


4.6 フォーラム中のその他の事項について

・ E-voting

今回のユースフォーラムからの新たな試みとしてE-votingによる投票が導入された。仕組み自体はいたって単純であったため、簡単な英語さえ理解できればe-votingに参画できるようになっていた。しかしながら、YA選挙後のDraft Resolution決議開始の際、システムに不具合が発生する事態となった。明確な原因は不明であるもののVoting Resultsがスクリーン上に反映されず、最終的にはE-votingによる投票を断念し、紙投票に移行した。Tellerや運営陣は最初からE-votingによる投票に過度な期待をしていたため、紙投票への準備がおろそかになり、結果的に議事進行の大幅な遅れを招くこととなった。

なお、世界会議でも同様の現象が発生したが、世界会議では問題が解決され、E-votingが継続された。こちらはDelegate席のラップトップを使って誰かがスマートフォンを充電していたことが原因であった。



・ アプリについて

今回の新たな試みとして、ユースフォーラム・世界会議と共に専用のアプリが導入された。アプリでは使用するドキュメントやプログラムの閲覧、セッションの評価、並びに会場にUBERを呼ぶこと（世界会議アプリ）まで可能であり、非常に利便性に富んでいたと評価できる。また、手元ですぐにドキュメントやプログラムを確認できることは、参加者として非常に助かることであった。



・ Tellerについて

-今回のフォーラムにおいてテラーを務めた人物-

Omar Elsayed (Egypt)
Akihiro Ikeda (Japan)
David Hynes (USA)
Joakim Kärkäs (Finland)
Nur Sharifah Nurul Atik (Malaysia)
Sarah Van Ruyssevelt (Belgium)
Tijana Saric (Bosnia and Herzegovina)

議決権を持たないオブザーバーの中からテラーを選んだ。中野まりさんから声をかけていただいたので、立候補し、全体の場でテラーの承認を経て任命された。

今回のフォーラムよりe-voting（パソコンを用いた電子投票）システムが採用されたが、votingの練習中に起きた不具合によりpaper votingを行った。各国連盟で代表2名が1票ずつ持っており(各国連盟で2票ずつ)、賛成、反対、棄権のいずれかに投票する。投票用紙（paper）は、紫色単色のものと縞模様の二種類があり、紫単色は2票分、縞模様は1票分を意味する。縞模様は代表の意見が割れた際に使用する。あらかじめ、原則としてe-votingを採用し、e-votingが機能しない際にpaper-votingを使用することが決まっていたが、実際にe-votingが機能しない事まで想定されておらず、システムエラーが起きた際は混乱になった。言葉の壁もあり、シンプルな票数計算を行おうという事になったので、本来の計算方法とは異なるが国ごとに一票（紫の紙）を数えた。縞模様についてはノーカウントした。この点を疑問に思い、何度も確認したが国ごとに一票という返事だった。票数が明らかな場合は計算を行わず、賛成、反対、棄権が同数程度の場合にテラーが計算を行った。意思決定は多数決により行われ、棄権票を除いて賛成と反対どちらが多いかで決定された。

・ Drafting Committeeについて

-今回のフォーラムで校正委員会を務めた人物-

Hassan Mohamed (Maldives)
Isabelle Dufresne-Lienert (Canada)
Samson Oluwaseun Idowu (Nigeria)
Filippo Fleishhacker (Italy)
Máire Fitzgerald (Youth Advisor to the WSC) Doina Postica (World Scout Bureau)

彼らが提出されたドキュメントの英文の修正などを担当した。

5. ドキュメント情報

ドキュメントは事前にインターネット上に公開された。ドキュメントの内容によって公開時期はまちまちである。



13th World Scout Youth Forum Documents

5.1 使用したドキュメントについて

今回のユースフォーラムに際して使用したドキュメントは以下の通りである。

13th WSYF

- ・ Document 1 [Provisional Agenda]
- ・ Document 2 [World Scout Youth Forum Guidelines]
- ・ Annex 2A [World Scout Youth Forum Rules of Procedure]
- ・ Annex 2B [World Scout Conference Resolutions and World Scout Committee Policy on Youth Involvement in Decision-Making]
- ・ Document 3 [Report to the 13th WSYF from the YAs to the WSC (2014-2017)]
- ・ Document 4 [Response to the 12th World Scout Youth Forum Declaration]
- ・ Document 5 [Youth Advisors Elections]
- ・ Document 6 [From an Idea to Resolutions]
- ・ Document 7 [The Forum Topics]
- ・ (13th WSYF Report)

41st WSCConf

- Document 1 [Provisional Agenda]
- Document 2 [Rules of Procedure]
- Document 2A [Terms of Reference Resolutions Committee]
- Document 2B [Resoution and Amendment Guideline]
- Document 3 [Invitation to Host Future World Events]
- Document 4A [Draft Resolutions Proposed by World Scout Committee]
- Document 4B [Draft Resolutions Proposed by Member Organizations]
- ~~Document 4C [Emergency Resolutions]~~ (今回Emergency Resolutionsの提出は無かった)
- Document 4D [Resolutions Committe Report]
- Document 5 [WOSM Membership]
- Document 6A [Strategy for Scouting - Draft Objectives for World Triennial Plan 2017-2020]
- Document 6B [NSO Growth Commitments and NSO Growth Awards]
- Document 7A [Amendments to the Constituion of WOSM propoesd by the World Scout Committee]
- Document 7B [Aamendments to the Constitution of WOSM proposed by Member Organizations]
- Document 7C [Voting on Constitutional Amendments]
- Document 7D [Report RC - Amendments to Constitutional Proposals]
- Document 8 [Scout Method Review]
- Document 9 [World Safe and Harm Policy]
- Document 10 [Concept Review of the World Scout Conference and the World Scout Youth Forum]
- Document 11 [World Scout Commitee Elections]
- Document 12 [Background Document Regarding Draft Resolution 2017-F Spirituality in Scouting]
- 41st World Scout Conference Business Resolutions
- Draft Objectives for the Trinnial Plan 2017-2020 As Approved by the 41st World Scout Conference

なお、個々のドキュメントに関しては以下のURLから詳しい内容を確認可能である。

<https://drive.google.com/drive/folders/0B9Ywt29OdkSfV3M3MzA0eFJZOXc?usp=sharing>

5.2 主要ドキュメント概要

以下に会議で使用した特に重要なドキュメントの概要を記す。

Document 4A [Draft Resolutions Proposed by the World Scout Committee]

このドキュメントでは世界スカウト委員会によって提出された議案とその提出の背景についてが記載されている。

2017-A Registration of Member Organizations

・2014年のスロベニアでの会議以降に申し入れがあった、加盟に対してMember Organizationsの全会一致の賛成もしくは5%未満の反対を受けた連盟の登録に関するものである。

以下の連盟がその対象である。

- ・ Scouting Aruba
- ・ Scouting Antiano
- ・ Palestinian Scout Association
- ・ Myanmar Scout
- ・ The Seychelles Scouts Association

2017-B Membership Application - The Scout Association of Macau

- ・ WOSM憲章6-2に従い、マカオ連盟を正式加盟国として迎え入れるかについての決議

2017-C Strategy for Scouting - Triennial Plan 2017 - 2020

・ 三カ年計画2017-2020を次期三カ年の包括的ガイドラインとして承認し、それを遂行することに関する決議

-備考-

Vision 2023を参照した上での三カ年計画である。詳しくは本報告書5.2に記されているDocument 6Aを参照。

2017-D The Scout Method Review

・ 第二回World Scout Education Congressにおけるスカウト教育法の見直しを受け、Community Involvementを8つ目の教育法として加えることについての決議

2017-E World Safe from Harm Policy

- ・ SfHの世界レベルで統一された基準が存在しないため、その作成に関する決議

2017-F Spirituality in Scouting

- ・ スカウト運動の信仰心をより強化することの提案に関する決議

2017-G Inclusive Decision Making - Developing the World Scout Conference and the World Scout Youtorum

・現在のユースフォーラムと世界会議という枠組みが将来的な青年参加を考慮する上での暫定的処置であることを受け、2023年までにはそれらを一体化させ、ユースの参画を強化した全く新しいイベントを行う提案に関する決議

2017-H 2030 Agenda for Sustainable Development

・Vision2023を受け、国連のSDGsに対してスカウト運動を挙げて取り組んでいくことに関する決議

Document 4B [Draft Resolutions Proposed by Member Organizations]

このドキュメントでは加盟国によって提案された決議案が紹介されている。

2017-I Evaluation of WOSM's Official and Working Languages

・1922年に採択されたWOSMの公式言語及び1990年、1999年に採択されたその他使用言語が採択後に見直されていなかったため、これらがNSOのニーズに対応しているか調査することを要請するもの

Proposed By: United States of America

Seconded By: Guatemala, Honduras, Argentina, Singapore, Brazil

2017-J Environmental Sustainability Impact

・"Creating a Better World"を達成するため、スカウティングにおける環境の保護、持続発展について重要性について再確認し、より一層の注意を払うための決議

Proposed By: Australia

Seconded By: Azerbaijan, Bangladesh, Democratic Republic of the Congo, France, Germany, Italy, Luxembourg, Maldives, Slovakia, United States of America

2017-K Review of World Scout Committee Size for Improved Efficiency, Accountability, and Effectiveness

・現在世界スカウト委員会は12名の委員、事務局から9名、それに加え6名のユースアドバイザーというメンバーで議論を行なっている。ミーティングの効率性を考えるにあたり、27名は多すぎるのではないかと調査を要請する決議

Proposed By: United States of America

Seconded By: Guatemala, Honduras, Singapore

2017-L Youth Advisor Functions and Responsibilities

・旧来よりユースアドバイザーの役割と責任は具体化されておらず、引き継ぎの際に過去のユースアドバイザーがその義務を果たせたのか評価することが困難であった。したがって、ユースアドバイザーの役割を記したリストを作成すると共に、WOSMと世界スカウト委員会に対する責任について見直すことを要求する決議

Proposed By: United States of America

Seconded By: Guatemala, Bangladesh, Singapore

2017-M Promotion of Jamboree-on-the Air and Jamboree-on-the-Internet

・ JOTA-JOTIの今までの成功を考慮し、WOSMとNSOからより多くの支援を受けることについて要請する決議

Proposed By: United States of America

Seconded By: Guatemala, Honduras, Bangladesh, Singapore

2017-N Bidding for Future Events

・ ここ数年世界イベントのコストが高騰しており、イベント主催の公平性が損なわれている。それを受けて世界委員会に公平で透明なイベント主催のガイドラインの作成を要請する決議

Proposed By: South Africa

Seconded By: Sweden, United Kingdom

6A Strategy for Scouting Draft Objectives for World Triennial Plan 2017-2020

Vision 2023とは

Vision 2023は2014年にスロベニアでの世界会議にて承認された、WOSMの2023に向けた目標である。具体的には1つのミッション、1つのビジョン、そして6つの戦略に基づいた目標となっている。

参考動画：<https://www.youtube.com/watch?v=RSTmgz1BCAs>

参考資料：<https://www.scout.org/node/50232>

-ミッション-

The Mission of Scouting is to contribute to the education of young people, through a value system based on the Scout Promise and Law, to help build a better world where people are self-fulfilled as individuals and play a constructive role in society

スカウティングのミッションは、社会において個々人が建設的な役割を担える市民として成熟しているより良き社会を築き上げるために、スカウトのちかきとおきてに基づいた価値あるシステムを通じて青少年の教育に貢献することである。

-ビジョン-

By 2023 Scouting will be the world's leading educational youth movement, enabling 100 million young people to be active citizens creating positive change in their communities and in the world based on shared values

2023年までにスカウティングは1億人の若者を、共有された価値に基づいて彼らの所属するコミュニティで良き変化を与えられる"Active Citizen"に育てあげ、世界における先駆的教育運動となることを目指す。

-6つの戦略-

これらの戦略は世界レベルのみならず、国レベル、隊レベルという異なる全てのレベルで行われるスカウト運動全体として試行される戦略である。スカウト運動としてこれらの戦略に基づいてビジョンの達成を目指していくこととなる。これら6つの戦略は”Innovating Scouting”、”Reaching Out To All”、”Governance & NSO Support”、そして”Strengthening Scouting’s Profile”という4つの分野に別れて促進される。



- ・ Youth Engagement (ユースの関与)
- ・ Educational Method (教育法)
- ・ Diversity & Inclusion (多様性の包括)
- ・ Social Impact (社会へのインパクト)
- ・ Communications & Relations (コミュニケーションと関係性)
- ・ Governance (組織運用)

このビジョンの達成のため、WOSMでは三ヶ年ごとに進捗報告及び計画の練り直しを行なっている。



-Vision 2023の達成度の評価方法-

達成度の評価方法としては4つのキーテーマ及びテーマに基づいた指標であるメタ・インジケータが掲げられている。

[Key Themes]

- ・ **Influence (影響力)** *"the world's leading educational youth movement..."*
- ・ **Social Impact (社会へのインパクト)** *"... to be active citizens creating positive change in their communities and in the world..."*
- ・ **Growth (大きさ)** *"...enabling 100 million young people..."*
- ・ **Unity (団結力)** *"...based on shared values."*

Key Theme	Meta-Indicator
Influence	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユースプログラムの教育的インパクトと質を高めるようNSOに影響を与えるような50の世界・もしくは地域イベントを行う。 ・ WOSMのミッションを進展させるグローバル協定を5つ結ぶ ・ 20%のNSOにおいて教育とユースポリシーにおける発展的・実践的な重要な"貢献者"として認知されるようになる ・ グローバルレベルにおいて利害関係者に対するWOSMの促進を、毎年15の青年代表をトレーニングし、サポートすることで実現する
Social Impact	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界市場におけるシェアを2%向上する ・ 持続発展計画の遂行、及びGSATに基づき全てのNSOのうち30%を支援する ・ 未だにスカウティングが浸透していない地域への関与を強めること (Reaching out to all) によって構成員を多様化することの支援を20%のNSOに行う ・ 新たに15の連盟を迎える
Growth	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルな分析の基軸として、50のNSOに関与することでSocial Impactを計測する ・ 過去にコミュニティーにおける"奉仕"が優先事項とされていなかった地域においての見直しを20%のNSOにて行う ・ スカウトと非スカウトの人格形成の違い(スキル、態度など)を統計学的に測定する ・ 社会へのインパクトの証拠として100万ドルの資金を調達することに寄与する
Unity	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100%のNSOがWOSMを"共有された価値に基づいた統合的運動"であると認知する ・ 30%のNSOがピースプログラム及び相互文化理解プログラムの要素をユースのプログラムに導入する(未だに導入されないNSOにおいて) ・ 少なくとも5つの世界地域の個人に関与し、50%のNSOに地域間率先に関与する ・ 70%のNSOにおいて、その国の戦略の見直しの際にVision2023を出典として参考にさせる

-三ヶ年計画2017-2020-

※これはdocument 6Aに記載されているものであり、世界会議にて採択された内容とは異なる場合がある。今回の世界会議で採択された内容については以下のURLを参照。

<https://drive.google.com/open?id=0B3W6nvxtNHjqZ3UwTFVackplQkk>

Youth Engagement (ユースの関与)

- ・ World Youth Involvement Policyの実行により、ユースの参画を強めること
- ・ 世界スカウト委員及び現行のユースアドバイザーシステムに基づいたその組織構造においてユースの関与を発展させること
- ・ 世界会議におけるNSO派遣団中の若者の参加レベルを高め、NSOに対して若者を世界スカウト委員会選挙に積極的に立候補するよう鼓舞する

Educational Method (教育法)

-General-

世界ポリシー、世界プログラム、イニシアチブ、フレームワーク及びプラットフォームの実行をサポートすることにより、NSOにおけるスカウティングシステム内のユースプログラムと成人の効率性を高める

-Youth Programme and Adults in Scouting-

- ・ 重要なライフスキルや能力により焦点を当てた指導者養成システム及びユースプログラムのNSOにおけるデザイン・実行を補助する
- ・ 人口動態、技術性及び持続的発展を可能とするボランティアトレンドを考慮した上で、スカウティングにおける成人の雇用、保存、継続、認識を改善するために戦略と資源を発展させる
- ・ 世界セーフフロムハームポリシーを全ての地域にて実行し、スカウティング外の環境にて子供と青少年を危害から守ることのできるよう、NSOに模範例を示すことでサポートする
- ・ 高い質のユースプログラムの促進やスカウティングにおける成人の支援によって加盟員増大の可能性を秘めているNSOに適切なサポートをする
- ・ ユースプログラムがSDGsへ貢献できるように保証するようNSOをサポートする
- ・ 社会と若者たちに対してポジティブな変化を生むため、NSOがユースプログラムにおいて若者が対話による平和文化を促進する具体的な行動を起こせるように保証するよう、NSOをサポートする
- ・ 危険な状況において若者が自発的にかつ安全に対応できるように鼓舞するユースプログラムをNSOが保証するよう支援する
- ・ グローバリゼーションとデジタル革新の影響におけるさらなる対話を促進し、それがユース全体に対してどのような意味を持つのかを特定する
- ・ マネジメント及びリーダーシップの実践の質を高めるため、NSOと世界におけるスカウティングでのシニアリーダーシップのためのフレームワークを発展させる

- ・ "Adults in Scouting Policy"の実行を通して世界スカウティングにおけるスタッフとボランティアの関係性を改善する

-World Events-

- ・ ネットワーク化されたイベントやバーチャルでの関わりの革新的理論を導入することにより、世界スカウトジャンボリーでの参加と若者の享受できる利益を向上する
- ・ World Scout Education Congressを、スカウティングにおける教育的状態、及び世界をリードする教育的なユースの運動としての立ち位置を討議するためのメインの世界スカウトイベントとして統合する
- ・ JOTA-JOTIにおける教育的コンテンツを改善し、ユースの参加率を上昇させる

Diversity & Inclusion (多様性の包括)

- ・ 地域コミュニティと社会におけるユースの構成をより反映することにより加盟員を増やせるようにNSOを支援する
- ・ 既存のフレームワークの利用及び、効果的なパートナーシップの提携を通して国における多様性の包括戦略を実行し発展できるようにNSOを支援する
- ・ 第三者が参考にし、実践できるように、NSOにおける多様性の包括に関する模範例を特定し積極的に共有する
- ・ NSOと世界のスカウティングにおける運用と成人の支援をするため、及びイベントとプログラムの包括性を支援するために効果的な評価・査定の遂行と発展をする

Social Impact (社会へのインパクト)

Increased Impact by (インパクトの増加法) :

- ・ 地域・国のコミュニティにおけるニーズに対応できるようにNSOを支援することにより、コミュニティ発展のためのプロジェクトの質と量を向上する
- ・ 該当するNSOを支援することにより、自然的・もしくは人為的災害によって被害を受けた地域の若者にスカウティングを提供する

Measure the Impact of (インパクトの測定) :

- ・ NSOにおける、社会インパクト測定のためのツールを発展させることを通じて、スカウティングにおける個人とコミュニティにおけるインパクトを測定する
- ・ 長期的インパクトに焦点を当て、OB・OGの経験のインパクトを測定する
- ・ スカウティングにおける教育イベントの参加者個人々の発展のインパクトを測定する
- ・ NSOにおける評価フレームワークを構築することによってコミュニティ発展のプロジェクトによるインパクトを測定する

Communications & Relations (コミュニケーションと関係性)

-General-

- ・ WOSMのStrategy on Communications & Strategic Engagement (CSE)の実行
- ・ 地域コミュニティと世界全体におけるスカウティングのインパクトを促進し、記録する

- ・ World Scouting's Brandの利用及びそのコンセプトの保証、またよりこのブランドをカバーするためにガイドラインを更新し、保持する

-External Communications-

- ・ 該当する支援及び連携を通じて、スカウティングについての対話を効果的に行えるようNSOの能力向上に焦点を絞る

-Strategic Engagements-

- ・ 以下の目的のため主要な法人とコラボする
 - スカウティングに対してのサポートを魅了すること
 - CSE戦略に基づいたスカウティングに影響するような主要な問題についての提唱を通してポジティブな変化をもたらす
 - SDGsへのスカウティングの貢献度を高める
- ・ スカウティングのミッションに貢献するため、また支援を最大化するような私的セクターや寄贈者を含めた戦略的パートナーシップを構築する
- ・ より多くの若者にノンフォーマル教育としてのスカウティングの経験を共有するため、教育的機関との連携を見極める
- ・ 世界スカウト基金との連携における自己充足性を探求することを含め、世界スカウト事務局の資金源を多様化する

-Internal Communications-

- ・ 最適な対内コミュニケーション環境を整えることにより、世界でのスカウティングとNSO間の重要なコミュニケーションを加速させる

Governance (組織運用)

-Capacity Strengthening-

- ・ Strategy for Scouting及びVision 2023の達成を可能にするため、世界スカウティングのNSOに対する支援方法を見直す
- ・ Global Support Cycleの意識、コミットメント、実行及び活用を向上することにより、全ての地域を通して世界スカウティングにおけるNSOのためのプロセスとして、このサイクルのさらなる統合をする
- ・ Strategy for scouting / vision 2023の提携の促進、評価と査定、戦略的計画においてNSOを直接的にサポートし、全ての地域における能力向上をする
- ・ NSOが財政的マネジメントの構造と手順について強化できるよう支援する

-Good Governance-

- ・ この運動を通して鍵となるリーダーシップに関する良き組織運用について模範を促進する
- ・ 世界スカウティングにおける透明性を向上し、意思決定参画、対内コミュニケーション、財政マネジメントと報告のような事項についてNSOに模範例を提供する

・NSOと世界スカウティングの組織運用とインパクトを改善するために有用な知識、経験、模範を記録し、よく理解するための相互理解システムを発展させる

6. 決議内容について

6.1 フォーラム 決議内容

-Draft Resolution修正案-

*International Team*によって提案された世界会議資料の修正案について採決した。修正案の提出のためには*International Team*内での修正案の取りまとめのみならず、最低一つの他の*International Team*からの支持が必要である。

加えてDraft Resolutionについては、フォーラムでの結果とそれに基づいた世界会議での採択について記した。この報告書ではユースフォーラムにて議論された内容のみを取り扱うため、フォーラムでは取り扱われずに世界会議にて議論された内容については触れないこととする。

・ドキュメントG修正案01 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：2023年に予定されている「世界スカウト会議と世界スカウトユースフォーラムを統合した新たな形のイベント」において、代表者の3人に1人を30歳未満にするよう世界スカウト委員会に求める。

[世界会議]

提案国：イギリス

支持国：マレーシア、イタリア、チリ

結果：可決

・ドキュメントG修正案02 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：各地域のバックグラウンドを反映したユースのボランティア達がイベントの企画段階に十分に参与していることを「次期イベント主催者」に求める。

[世界会議]

提案国：スペイン

支持国：アルゼンチン、ガンビア、エジプト

結果：可決

・ドキュメントG修正案03 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：「次期イベント」においてユースの意思決定における有意義な関与および効果的貢献を保証するための手段を確立するよう世界スカウト委員会に求める。

[世界会議]

提案国：スペイン

支持国：アルゼンチン、ガンビア、エジプト

結果：可決

・ドキュメントE修正案01 日本派遣団の票： 結果：提案者により撤回

概要：安全保護のためのポリシーの追加の可能性を考慮し、世界スカウト委員会に定期的なセーフ・フロム・ハームポリシーの見直しを求める。

[世界会議]

世界スカウト委員会からの提案が修正なしで可決

・ドキュメントH修正案01 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：パリ協定、仙台防災枠組2015-2030、アディスアベバ行動目標、国連安保理決議250を2030年アジェンダの補完的なフレームワークとして正式に認める。

SDGsへの貢献のため、世界スカウト事務局に各国連盟への支援を求める。また、SDGsに関するユースプログラムの支援を事務局に要求する。 など

[世界会議]

提案国：スウェーデン

支持国：オーストラリア、ペルー、ケニア、アルゼンチン、フランス、モルジブ、ノルウェイ、チュニジア、ギリシャ、ドイツ

結果：可決

・ドキュメントK修正案01 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：[前文に関して]世界スカウト委員会の、意思決定におけるユースの参画の強化のための取り組みを再び断言する

[世界会議] 修正案提案なし

・ドキュメントK修正案02 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：世界スカウト委員会に対して、ユースの意思決定への参画を考慮した上で効率的に責任を果たすため、最も効率的な委員会の大きさおよび構造を見直すことを求める。

[世界会議] 修正案提案なし

・ドキュメントL修正案01 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：[前文に関して]包括的意思決定に際して、“次期イベント”のために世界会議と世界ユースフォーラムを発展させる

[世界会議] 修正案提案なし

・ドキュメントL修正案02 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：世界スカウト委員会に対して、新たに選出されたユースアドバイザーと共に「ユースアドバイザーの機能」についてタスクリストを作成し、ユースアドバイザーの機能の見直しを要求する。

[世界会議] 形を変えて可決。“過去のユースアドバイザーと共に”を追記

以下、ドキュメント6AはWOSMの三カ年計画に関するものである。概要には修正案の内容について記す。

・ドキュメント6A修正案01 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：SDGsの達成のため、NSOは地域レベルでNGOや他の事業者と協力し、ユースが地域内における問題解決プロセスにおいて参画していることを保証すべきである。

[世界会議]

結果：形を変えて可決

・ドキュメント6A修正案02 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：NSOにおけるユースプログラムと成年のシステムの効果を、世界ポリシー・プログラム・新政策・フレームワーク・プラットフォーム・[追加：世界イベント]の実施の支援をすることによって向上する

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案03 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：教育的ツールとしてのテクノロジーの使用実態およびスカウト運動におけるそのポテンシャルについて調査・報告をする

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案04 日本派遣団の票：棄権 結果：可決

概要：スカウトプログラムにおけるテクノロジー使用の度合いを高める

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案05 日本派遣団の票：反対 結果：棄却

概要：世界セーフ・フロム・ハームポリシーを全ての地域で実行し、スカウティングにおける有害な状況から子供たちや青少年を守るため、他者との実践例を共有することによりNSOをサポートする

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案06 日本派遣団の票：反対 結果：可決

概要：スカウト人口の増加・保持・継続、世間での認知度およびスカウティングにおける成人の能力の妥当性を確認を改善するため、スカウティングの更なる発展のための人口統計的・技術的・自発的トレンドを考慮し、戦略および資源を発展させる。

[世界会議]

結果：形を変えて可決

・ドキュメント6A修正案07 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：World Scout Education Congressを、スカウティングにおける教育的側面の検討のため、および世界をリードするユースの教育運動としての更なる高みに到達するための、三年に一度開催される世界イベントとして決定する

[世界会議]

結果：可決

・ドキュメント6A修正案08 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：ネットワーク化するイベントやバーチャルでの関与のような革新的方法を導入することにより、世界イベントにおける青少年の参加者数を増加させる

[世界会議]

結果：可決

・ドキュメント6A修正案09 日本派遣団の票：反対 結果：可決

概要：地域コミュニティおよび社会におけるユースと成年の構成をより良く反映した組織構成のためにNSOを支援する

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案10 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：より多くの若者を"Active Citizen"にするため、NSOがその地域組織においてユースの構成をよりよく反映することをサポートする

[世界会議]

結果：可決

・ドキュメント6A修正案11 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：スカウト運動における、プログラムを通じた難民の受け入れに関してNSOを支援すると共にその必要性について認識する

[世界会議]

結果：形を変えて可決

・ドキュメント6A修正案12 日本派遣団の票： 結果：修正案に不備があり撤回

概要：該当するNSOに支援をすることにより、自然的もしくは人為的災害の被害を受けた地域にスカウティングをもたらす

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案13 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：[修正]地域社会におけるスカウティングの認知度向上に対してSocial Impactの持つ影響を認知し、それに対するトレーニングツールをNSOの中で発展させることを支援する。

[世界会議]

結果：修正案提出案なし

・ドキュメント6A修正案14 日本派遣団の票：反対 結果：可決

概要：[全文修正]該当するNSOの・支援を通じて、人為的災害の被害を受ける地域に住む人々をターゲットとした教育的・包括的・人道的プログラムを最優先課題とすることによるインパクトを向上する。

[世界会議]

結果：修正案提出なし

・ドキュメント6A修正案15 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：[追加]SDGsの達成のため、地域におけるパートナーシップの生成および促進のためにNSOを支援する

[世界会議]

結果：形を変えて解決

・ドキュメント6A修正案16 日本派遣団の票：賛成 結果：可決

概要：以下の事項を考慮し、WAGGGSと有意義な連携を築き上げる

- ・スカウティングに影響を中核的問題の是認を通してのポジティブな変化
- ・SDGsを通しての世界的戦略の発展

[世界会議]

結果：形を変えて解決

・ドキュメント6A修正案17 日本派遣団の票：棄権 結果：可決

概要：この運動におけるWOSMの運営形態における代表者の公正なジェンダーバランスのために努力をする

[世界会議]

結果：可決



6.2 最終宣言

私たち、スカウト運動におけるユースは、スカウティングおよび社会の中での意思決定プロセスにおけるより強い権利を獲得するため、我々自身を鼓舞するため、そしてスキルの発育のために、第13回世界スカウトユースフォーラムを開催し、2017年8月7日から10日にかけてアゼルバイジャンのガバラに集った。

この宣言は以下の事項のためのものである

- スカウティングにおける若者の声を結集すること
- スカウティングにおける発展の情報共有およびそのための手引きをすることを願い、今日における若者たちにとって価値ある将来像、願い、決定能力、信念の共有をすること
- フォーラムのセッション中に行われたディスカッション、対話、討議の要点をまとめること
- 116のNSOからの236人の派遣員が参加した過去最大の歴史的参加者数の祝福
- 96%(236人中226人)の派遣員がフォーラム後の世界会議にも参加するという事実の強調
- このフォーラムのような世界的意思決定プロセスに今後もユースの参加者が増えるようにという我々の願いの表出
- 拘束力はないもののこの宣言が世界のスカウトの意見を代表しているという点で注目に値すること、およびその重要性についての承認
- „Active Citizenship“が中核的将来像であること、我々の促進する価値、そして当宣言がこの将来像を表現していることを強調する

Youth Engagementにおいて…

地域によってユースの関与および参画のレベルが異なっていることを認める。そして三カ年計画に従い、若者と大人の双方にとってのリーダーシップ発展の機会を、この運動におけるリーダーたちを鍛錬するための重要な要素となるように促進する価値を信じる。

1.1世界スカウト委員会に対して以下の事項を要求する

- ・加盟国が世代間での協力体制を発展させていることの保証を目指すこと
- ・世界レベルでの意思決定におけるユースの参画を継続することの誓約
- ・地域と共に、そして地域内で、持続的変化をもたらすための支援をすること
- ・加盟国が組織内全てのレベルにおいて若者が意思決定プロセスに参画できるような民主的構造を所有していることを明確にするための監督
- ・若者の多様な責任能力構築、および世代間関係・ユースの実践的参画のための構造の支援
- ・リーダーシップがスカウティングにおける中核的教義であることを、言葉と行動ともに強調することの継続

現行のユースアドバイザーおよび世界スカウトユースフォーラムのシステムがその能力を縮小させる可能性があること、さらには先見の明がある若者たちが世界スカウト委員のメンバー間における彼ら自身の投票権に関して完全に平等であることを考慮する

1.2世界スカウト委員会とユースアドバイザーに対して以下の事項を要請する

- ・ 現行のシステムに追加された価値について注意深く評定すること
- ・ 有意義なユース参画の精神のための可能性を持つ方法として、旧ユースアドバイザーシステムを若手の世界スカウト委員のために設立することによって現行のユースアドバイザーシステムを見直す可能性について考慮すること

1.3 加盟国に対して以下の事項を推奨する

- ・ フォーラムと会議の全ての場面に於いてNSO代表者たちが自発的に参加できるよう十分なレベルの参加率を目指して邁進すること。若者たちは準備からイベント期間中を通してサポートを受けるべきであり、またこれらのイベントに参加するように鼓舞されるべきである。

1.4 また、加盟国に対して以下の事項を要請する

- ・ 世界会議でのユースの参画を強め、派遣団の代表者の中にユースを含めること

1.5 ユースアドバイザーに、世界スカウト委員会に対して以下の事項の働きかけをするよう要請する

- ・ フォーラムに参加した代表のうち少なくとも1名を含めたネットワークを構築する事
- ・ ユースアドバイザーと彼らの代表する”ユース”の継続的な対話を保証する事
- ・ ユースのための「サポートメカニズム」としての働きをする事
- ・ 全てのスカウトが十分な情報を手に入れられるよう、Youth Wallの他にも簡単にアクセス可能なチャンネルを設ける事
- ・ 世界会議におけるユースの代表者としての参画を促進する事

1.6 フォーラムの形を見直す過程に関わる者たちに対して以下の事項を勧める

- ・ 参加者の結束を保つため、新しい形のイベントにおける参加の質とユースの貢献についてを保証できるような手法を発展させる事
- ・ 経験の少ない参加者に対しての教育的価値を保つよう邁進する事
- ・ 世界会議における適切な参画を目指し、新しいイベントの前にプレイベントとして経験の少ない参加者に焦点を当てたイベントを行う事
- ・ 全ての参加者のために、統合された議題を提示する事

Social Impact において...

スカウト運動が憲章上、非政治的教育運動であることを再確認する。しかしながらスカウトが非政治的か定義の曖昧な問題については、よく理解した上で政治的行動を行うことがあることを指摘する。社会の一部として、また、価値ある組織としてスカウティングは時には政治的になることを避けられない場合があるのだ。

スカウティングは盲目的な支持団体としての政治運動ではないことを考慮する。

Creating a better worldという目的を達成し、NSOが彼らの社会において社会的インパクトを発展させるために参画すること可能にするためには、スカウト運動が今までも、そして

これからもグローバルな社会的問題に対しての取り組みを進めていくことが唯一の方法である。

3.1 我々は世界スカウト委員会に以下のことを要請する。

- ・スカウトたちが現代におけるActive Citizenとなれるように、憲章における”非政治的”という概念を見直すこと

3.2 世界スカウト委員会に対し、以下のことを同様に要請する。

- ・監視と評価メカニズム、大きいスケールでのプロジェクトにおいて最善の実践をできるプロセスのような（限定されているわけではないが）ものを含めた、特定の受益者に対して長期的・持続的社会的インパクトをもたらすことのできるような画期的プロジェクトを継続するためのツールを発展させること

Diversity Inclusionにおいて...

個々人が異なるバックグラウンドを持ち、多様性の社会に包括されていることを認める。

スカウト運動が万人に対して開かれている運動であることを再確認し、スカウト運動が価値に基づいている運動であることを強調する。しかしながら幾つかの国においては多様性の包括という問題において未だに法的な障壁が存在している

我々は世界スカウト委員会に以下の事項を要請する。

- ・NSOと世界中のスカウトに対して、可能な時に、性的指向性の多様性が存在することについて意識を根付かせるよう促進すること
- ・該当するNSOに対して、性的指向性の多様性について考慮し、かつ差別なき平等性を保証するために、活動の企画と実行の枠組みを示すこと。
- ・社会経済的状況や様々な異なるバックグラウンドをもつスカウトたちを経済的・社会的に支援するために適した環境を創出すること
- ・異なるバックグラウンド、社会経済的状況のスカウトたちが世界レベルのイベントに参画できるように保証すること
- ・スカウティングの環境における更なる包括的な対話を創出し、促進すること
- ・我々の運動の根幹である”多様性の包括”に対して反対的なファンドからは手を引くこと
- ・”多様性の包括”に反するイベント、プログラムに対する資金の提供を控えるよう促すこと
- ・スカウティングにおける全てのレベルでジェンダーの多様性を保証すること
- ・障害をもつ人々にとってスカウトのイベントが参加可能で、参加において不自由のないものであることを保証すること

Communications and Strategic Engagementsにおいて...

4.1 我々は世界スカウト機構に対して以下の事項を求める

- ・公式オンラインチャンネルを通して効果的にメッセージや情報を効果的に発信し、全ての人々に届くようにコミュニケーションチャンネルを合理化するために、不必要で非公式なチャンネルを最小限に留めるように努力すること

4.2 我々は各国スカウト連盟に以下の事項を推奨する

- ・指導者と若者たちが以下の事項に意識をもつことを保証すること
 - 世界のスカウティングとは何か
 - 次期国際イベントについて
 - グローバル運動としてのスカウティングのインパクト

Governance and NSO Supportにおいて...

三カ年計画に提示されている若者の関与の原則と、運用におけるそのニーズを再確認する。

5.1 我々は世界スカウト会議に対して以下の事項を鼓舞する

- ・ユースアドバイザーの世界スカウト委員に対する可能な限り十分な統合のために見直しを始め、提言をすること

5.2 我々は世界スカウト委員会に対して以下の事項を要請する

- ・各国スカウト連盟に対して統治機構の全てのレベルにおける若者の参画を促すこと
- ・各国スカウト連盟のために以下の事項のために何をすべきなのかを示すガイドラインとトレーニングのための教材を供給すること
 - 若者が統治機関において活躍できるような準備の方法
 - 国家レベルと世界レベルの双方で価値を促進できる若者を選出する方法
 - ユースフォーラムの間の代表の長期的な一貫性を保証すること
- ・我々が選出する者が統治の運用においてより多くの対話をする（限られているわけではないが）で説明責任や透明性を向上させるような方法を通して、Vision2023を達成するためにより良き統治運用を発展させること
- ・ユースアドバイザーが関与し、アドバイスを提供し、彼らの業務情報などを共有することで世界中の若者たちと対話することのできる場所を現行のオンラインプラットフォーム (Facebook, WSYF app, scout.org, etc.)に設けること

5.3 我々はユースアドバイザーに対して、世界スカウト委員会に以下の働きかけをするように要請する

- ・ユースアドバイザーと地域のユースアドバイザー及び他の若者たちの間におけるより良きコラボレーションを通してビジョン2023における若者の参画の向上のために邁進すること

Sustainable Development Goalsにおいて...

2015に国連総会において決議された「"Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development"」を参照する。

実際に何かを実行すること同様に、小さな努力の日々の積み重ねを通して、全ての人々が取り組めば世界的レベルで大きな変革をもたらすことができることを指摘する。

2030 Agenda for Sustainable Development (2017 - H)の決議草案に対しての、第13回世界スカウトユースフォーラムにおける修正案を考慮する

・SDGsの達成のためには若者たちが中核的役割を担い、ユースアドバイザーがアイデアを収集し若者に働きかけるための鍵となる立ち位置にいることを指摘する

6.1 我々は：

- ・世界の全てのスカウトに対してこれらのSDGsに示されたゴールを2030年までに達成するために何らかの行動をするよう喚起する
- ・世界スカウト委員会の一部としてのユースアドバイザーに対し、世界レベルのミーティングをより環境負荷の小さいものにするよう努力を継続することを促す

6.2 我々は世界スカウト機構に対して以下の事項を推奨する

- ・SDGsを達成するためのガイダンスを共有するよう支援すること
- ・scout.orgにおいて、全てのNSOがよりアクティブに全てのレベルでSDGsの達成に取り組むよう鼓舞することを目的として、地域社会におけるSDGsへの取り組みの模範の示すこと
 - SDGsをプログラム面のみならずWOSMにおける全てのパートにてにおいて考慮し、SDGsが一つの意思決定過程のみならず全てのローカル・ナショナル・リージョナル・インターナショナルレベルにおいて教育的対象として見なされるべきである。

そして最後に...

我々は世界スカウト機構に対して、この運動をこのようなフォーラムや会議に出席する限られたスカウトのみならず全ての若者に奉公するように喚起する。

我々は世界スカウト機構に対して、国際的イベントに参加できる限られたスカウトのみならず全ての年齢の、異なるバックグラウンドを持つスカウトたちに奉公するように喚起する

まとめ

我々はこの宣言における文章が、様々なバックグラウンド及び国籍を持つスカウトによって構成されたインターナショナルチームにおけるディスカッションや熟考を経て、各国スカウト連盟を代表する若者たちによって採択されたものであるという事実を強調する。このように、この宣言は参加者全員の考えや意見を十分に代表しているものである。

本フォーラムが参加者の数と参加NSOの数の双方にて歴史上最大であった事実を考慮し、我々は世界スカウト会議、世界スカウト委員会、各国スカウト連盟、そして世界スカウト委員会の一部としてのユースアドバイザーに対して、この第13回世界スカウトユースフォーラムの最終宣言を受け入れて、世界中の若者の考えやニーズを尊重するように要請する。

Forum Report

13th World Scout Youth Forum - Azerbaijan 2017 より

7. インターイベントについて

7.1 概要

フォーラム及びスカウト会議に参加するスカウトを対象として行われる2泊3日のプログラム。アゼルバイジャンの豊かな自然と歴史的価値の高い遺産の見学を満喫することで、フォーラムの疲れをリフレッシュし、後に控える世界スカウト会議に臨むことができるようにするという狙いがある。

7.2 訪問地紹介

シェキ (Şəki)

インターイベント前半に滞在した町。アゼルバイジャンの北西部に位置し首都バクーからは325km離れている。この街は2700年以上の歴史があり、1世紀ごろ存在したガバラを首都とするカフカス・アルバニア王国（現在のアルバニア人とは関係ない）で最も大きい街であった。8世紀ごろにその他カフカス地域の国と同様アラブ人の侵略を受けてイスラム化する。近代になると帝政ロシアに併合され、ソ連建国までロシアの属州扱いであった。

イスラーム時代の遺跡が多く、ハンの城、隊商宿の遺跡から交易地として栄えたことが想像できた。町は砂っぽく天気がいいとすさまじい暑さとなる。土産物店が多く大半は英語が使えるが、一部の古い店ではロシア語とアゼリ語しか使えない。アゼルバイジャン連盟主導でツアーが行われたがお世辞にもよく練られたプランとは言えず、興味のないシルク店やお菓子屋に無理やり連れていかれるなど、格安ツアーで免税品店巡りをさせられているようだった。



Marxal hotel

初日に滞在したホテル。ホテル自体は申し分のない高級リゾートホテルだったが、ここでもプランに問題が発生した。インターイベント参加人数を主催が把握できておらず、ホテルの部屋がないスカウトが多数発生した。我々は結局マカオやシンガポールのスカウトたちが泊まるコテージに厚意で入れさせてもらったが、新ユースアドバイザーのMr.Mori達が深夜まで対応に追われているようで、かなり問題があったように感じた。

Absheron Marina Beach

インターイベント二日目に訪れたビーチ。バクーから約15kmの位置にある。カスピ海沿岸のビーチで、ここにあるテントに一泊した。ここでもテントの数が足りないトラブルはあったようだが、テントで寝るスカウトがそもそも少なかったのであまり問題にはならなかった。世界最大にして日本の面積とさほど違いがないカスピ海で泳げるというめったにない機会は非常に楽しかった。音楽が夜遅くまでなり響き、皆が踊る姿はさながらビーチのディスコのようにであった。



8. 第41回世界スカウト会議派遣

8.1 概要

テーマ：Together for Positive Change

参加者：1153人（代表・オブザーバー）、同伴者74人、

ゲスト118人 その他200人

計1500人

参加NSO：160

日本連盟の所有する6票（6名の代表）のうち、1票は青年代表に配分されることが近年の日本連盟の方針とされている。代表者は会議中前方の指定席に座り、参席者は後方に座ることになる。6名の代表といっても、日本連盟の代表団としての意見として票を分配するため、青年代表を除く代表団があらかじめ投票の見通しを立てた上で青年代表に確認する流れとなった。マカオのWOSM加盟については賛成で一致し、世界スカウト委員の選挙についても青年代表を含む世界スカウトユースフォーラム参加者の意見と一致していた。次回の世界スカウトユースフォーラムおよび世界スカウト会議の開催地に関しては、青年代表を含む世界スカウトユースフォーラム参加者の多数決の意見とは異なっていたが、青年代表にとって強いこだわりのある問題でもなかったため日本連盟の意向に沿う形で納得した。投票の結果2020年の世界スカウト会議はエジプトで開催される。2023年の世界スカウトジャンボリーの開催地については日本連盟と韓国連盟ですでに協力の取り決めがあったため、選択の余地はなかったが青年代表を含む世界スカウトユースフォーラム参加者もそれで納得している。2023年の世界スカウトジャンボリーは韓国で開催される。e-votingが採用された会議だったが、機械類の不具合一部はpaper-votingが適応され、その際の投票は青年代表に任された。日本の青年代表が投票している姿が世界中に配信され、日本でもその姿を確認したとの報告が相次いだ。

第41回世界スカウト会議は、constitutionの改正がメインとなっていたため、青年として意見を述べるほど関心の強い議題ではなかったこともあったが、本来なら投票の際に青年の総意として話し合いができるように、青年代表はスカウティングの歴史や背景、現在の姿について精通している必要を感じた。



8.2 日本派遣団メンバー

日本代表団の編成は以下の通りであった。（敬称略）

〈代表 6人〉

1. 水野 正人 副理事長・国際コミッショナー
(首席代表)
2. 鈴木 玲子 理事・日本連盟コミッショナー
3. 嶋田 寛 副国際コミッショナー・副国際委員長
4. 佐藤 栄保 事務局次長
5. 高野 夏樹 事務局 組織・管理部課長
6. 池田 章浩 青年代表

〈職を持って参加する者〉

7. 中野 まり 世界スカウト委員・理事

〈オブザーバー 7人〉

8. 間下 正司 評議員・大阪連盟参与
9. 高橋 克広 国際委員会委員
10. 鈴木 武道 神奈川県連盟横浜第87団団委員長
(元世界スカウト委員)
11. 岩崎 広志 事務局 組織・管理部職員
12. 木村 直登
13. 枝迫 七海
14. 神生 柚貴

〈同伴者〉

15. 間下 和美 間下正司評議員夫人



以上、 代表6名、職を持って参加する者1名
オブザーバー7名、同伴者1名、合計15名

なお、世界会議中は基本的に代表の6名が主体的に決議に参加し、オブザーバーの7名がオブザーバー席にて参席をするという形だった。ただし、決議以外のグループセッションなどに関してはWSYFと同様に代表とオブザーバーの差は無く、それぞれ分担して様々なセッションに参加した。

8.3 世界スカウト会議 評価・反省

項目	
中野まりさんの事前集会	日本連盟理事の中野まりさんからWOSMと今回の世界スカウトユースフォーラムについて説明していただいた。要点が理解できたことで事前準備に見通しがついて大変助かった。特にフォーラムでは日本派遣団とInternational Teamの機能の違いについて理解でき、会議ではVision2023の背景について理解できた。
意思決定事項の確認	世界スカウト会議で意思決定を求められた3点、世界スカウト委員の選挙、次回の世界スカウト会議と世界スカウトユースフォーラム開催地、2023年の世界ジャンボリー開催地について青年の意見としてどこに票を入れたいのか話し合う時間を確保し、その上で日本連盟派遣団と話し合いを行うと良い。特に、演説や発表後にRS同士で話し合いを行うこと。
WOSMセッション	世界スカウトユースフォーラムと同様のセッションが用意されていた。特に目新しいものもなく、復習程度だった。世界スカウトユースフォーラムで聞き逃してしまったセッションがある場合は世界スカウト会議でも確認できる。
日本連盟派遣団との話し合い	青年代表が世界スカウトムートに参加している間に、青年代表を除く日本連盟派遣団のデリゲートで事前集会が行われていた。今回のように他の海外派遣がない場合は、そちらの事前集会にも参加させていただけるように確認する。
代表の資質	世界のスカウティングを学ばせていただくという気持ちで行くと全くついていくことができない。最近の世界スカウト会議の流れやWOSMの構成などの基本事項は理解している状態で、WOSMの意思決定に加わらないと何を決めていて何が問題なのか全く理解できない。日本派遣団では有難いことに青年にも一票を分けているが、青年はその一票を飾りでなく意味のあるものにする努力をする必要がある。

9. 帰国後の動きについて

9.1 事後集会

13WSYF及び41WSCの内容、及び得られた知見を報告書に適切にまとめるために対面式の会議を行った。次回の派遣団への引き継ぎや今後の国内での報告及び情報発信を念頭に置きながら議論した。

・対面事後集会

日時： 9月15日9時から19時

場所： ボーイスカウト会館7階701

出席者： 木村、池田、枝迫、神生

議題： 報告書の現状の見直し、今後の作業の進め方の協議

第13回世界スカウトユースフォーラム日本代表派遣団の提言について

報告書提出後の動きについて

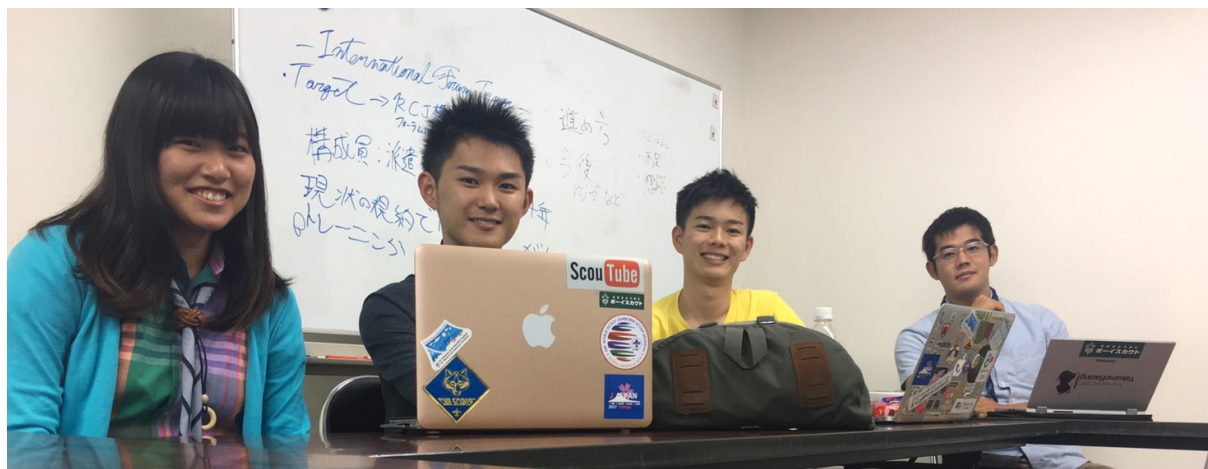
国際フォーラムチームについて

・Skype会議

日時： 10月3日23時から24時

出席者： 木村、池田、枝迫、神生

議題： 報告書の現状の見直し、報告書最後の手直し



9.2 派遣団の目的・目標に対する評価

我々が事前に掲げていた目的・目標に対する事後評価である。

-目的-

1.日本のスカウティングの現状および課題を把握した上で他国の代表と議論し、世界スカウトユースフォーラムの意思決定に参画すること。及び、ユース年代の意思決定参画についての理解を深めること

[評価]

事前に実施したアンケートにより、日本におけるスカウティングの現状及び課題が明らかになった。特にWOSM関連の知識やSDGs関連の知識の欠如が顕著であることが問題となっている。またユースフォーラムの意思決定参画に関しては、派遣員全員で決議の前に話し合い、事前アンケートに寄せられた意見などを参考にした上で票を投じた。以上のようなプロセスを経て、派遣員全員の青少年の意思決定過程への参画に関する知識が深まったと評価できる。

2.他国やWOSMにおけるユースの参画、およびローバースカウト年代についての情報を収集し、得られた情報・知見を日本国内で発信すること。

[評価]

これらの情報は基本的にセッションの合間などの時間に他国参加者との会話から収集した。しかしながらフォーラム中は主にAPRの参加者と行動をすることが多かったため、我々の仕入れた情報はAPRに大きく偏ることとなってしまった。しかしながら他の地域の参加者ともコネクションを構築することができたため、今後の情報収集の面ではこれらのコネクションの活用が期待される。得られた情報の発信については今後の我々の責務であるため、現状での評価は控えることとする。

-目標-

1.事前アンケートを実施し、日本のスカウティングの現状についてまとめる。

[評価]

目標の通り、Web上で事前アンケートを実施することができた。全部で230名超の方々からご回答頂き、様々な課題が浮き彫りとなった。しかしながら、アンケートの実施に関しては改善の余地があると評価できる。第一にアンケートの実施期間が一週間に限られていたことが問題であった。幅広く意見を募るのであれば、期間を長めに設定する必要があったと考えられる。また、アンケート実施の通知に関しても改善の余地があると言えよう。今回はRCJの国際フォーラムチームに協力を仰ぎ、WEB上の通知のみでアンケート実施に至った。しかしながら全国規模で多くの方々にご回答していただくためには日本連盟から正式に通知をして頂き、アンケートを実施した方が有効であったと考えられる。

2.ユースの意思決定過程への参画について情報収集し、日本のスカウティングにおける課題・および解決策を模索する。

[評価]

ユースフォーラムへの参加を経て、ユースの意思決定過程への参画に関して様々な情報を収集することができた。また、情報を収集する過程で日本のスカウティングにおける様々な課題が浮き彫りとなった。しかしながら、それらの解決策としては様々なものが考えられ、日本に合った解決法を検討する必要がある。当派遣団では提言として、RCJの制度改革などを当報告書の終盤にまとめている。

3.SNSを駆使し、可能な限りリアルタイムで情報を発信する。

[評価]

本派遣団では派遣中のより幅広い情報発信のためにSNSのアカウントを開設し、積極的な情報発信を心がけた。しかしながらリアルタイムでの頻繁な更新は残念ながら難しく、後々余裕ができた際に「フォーラムを振り返る」というような特集を組んで記事を書くというような方式を取るようになってしまった。特にユースフォーラムの最中は日中夜多忙であったこともあり、派遣員に更新の余裕が無かったこと、更には5時間の時差により適切なタイミングが得られなかったことが原因である。とはいえ、SNSでの情報発信自体には大きな効果があったと評価できる。前回派遣ではSNSでの情報発信は行っていなかったものの、今回のSNSアカウントの開設により、多くのスカウトの関心を引きつけると共にこの派遣の認知度を高めることができた。また、世界会議などで取り扱われた主要な議題決議の速報の情報発信をすることが非常に需要が高かったようである。

9.3 派遣団としての評価・反省一般

・派遣団として学びに行くという態度で派遣に望んだのが間違いであった。確かに大きな学びとなったものの、世界スカウトユースフォーラムにおける提言の場で派遣団としての提言や明確な意見を表明することができなかった。

・事前準備に時間をかけていたことが功を成した。中野まりさんのご協力の元、事前集会でWOSMの仕組みやユースフォーラムと世界会議で取り扱われる議題について一通りの理解を得ることができたため、その後の事前準備の会議も比較的スムーズに進んだ。特に国際フォーラムチーム協力のもとで行った事前Webアンケートでは230件以上の回答を得ることができ、日本のローバースカウトの現状調査を行うことができた。その結果を元に議論もできたため、非常に有意義なアンケートだったと評価できる。しかしながら回答期間が一週間と短く、ローバースカウトの大多数にアンケートの情報が行き渡っていたような状況では無かったため、次回アンケート実施時には長めの回答期間を設けることや情報発信方法を工夫することなどの工夫が推奨される。

・派遣中に報告書のある程度の枠組みを完成させ、主要なものを記入しておいたことが後になって非常に役に立った。時間が経つにつれて派遣の記憶が薄れていくため、可能な限り迅速な報告書の作成をすべきであると痛感した。

9.4 派遣員所感

木村 直登

今回、私はWSYFに二度目の参加をさせて頂けることとなった。私が今回のWSYF派遣への申し込みを心に決めた背景には前回派遣における後悔がある。当時私はローバー一年目で派遣に臨んだ。叙任を受けたばかりで右も左もわからず、純粋な興味本位で派遣に申し込んだのである。そのような好奇心の下、派遣でも活躍できれば良かったものの、現実には甘くなかった。私の準備不足・知識不足・経験不足・英語力不足の全てが祟り、前回のWSYFは私の中で苦い思い出として残っている。また、WSYF派遣団全体としても準備不足が祟り、十分な成果を得られぬまま帰国することになってしまった。報告書の作成も遅れてしまい、提言の内容も各方面で十分に反映されない結果となってしまったのである。

そのような事情があり、私の中で今回の派遣は「前回のリベンジ」と位置付けられていた。派遣団、そして私自身の悔しさを晴らすためには、事前準備に釈迦力になって邁進することが必要であった。また、私には前回派遣員としての情報共有・引き継ぎという任務があった。内定直後から他のメンバーに情報共有をして準備の必要性を説いたつもりであるが、これによって彼らがより一層熱心に準備に取り組んでくれたのであれば嬉しい限りである。

さて、私は今回WSYFでのDelegateという大変名誉な役目を拝命し、その責務を果たそうと必死であった。他国の参加者に引けを取らないよう、気を引き締めてディスカッションに臨んでいた日々が今でも鮮明に思い出される。この緊張感の背景には、三年前にディスカッションに思うように加わることができなかったという苦い思い出がある。そのような一番の懸念材料だったディスカッションへの参画であるが、三年前と比較しても私自身の知識も増えた他、英語力も向上しており、幸いなことに然程の不自由なく実現できた。また時間をかけた事前準備が功を奏し、この上なく有意義な日々を送ることができた。そのような面で自己成長を感じることをできたのを非常に嬉しく思うと共に、失いかけていた自信を取り戻すことができたのはこの派遣における私自身の大きな成果の一つであると評価できる。

また、今回のフォーラムの大きな学びの一つとして、日本と世界のスカウティングのギャップが挙げられる。WSYFとWSCConfに参加して改めてスカウティングの秘める無限の可能性に感銘を受ける一方、日本のスカウティングの現状が目も向けられないほど悲惨なのはあまりにも心苦しい。WOSMはVision 2023にて、2023年までに世界に1億人のActive Citizenを生み出すとの目標を定め、これが世界会議において可決された。一方の日本連盟では人口減少に歯止めが効かず、遂には加盟員が6万人ほどにまで減ってしまった。日本におけるスカウト人口の減少は長らく危惧されていたことであり、この問題が一筋縄で解決され得ないものであることも自明である。しかしながら、日本と世界のスカウティングを比べると何か根本的な問題がある可能性も否定できない。何にせよVision 2023の達成のため、そして日本におけるスカウティングの絶滅を防ぐために、我々は一丸となって、時代を反映した若者のためのスカウティングを促進していく必要があるのではないだろうか。

最後になりましたがこの派遣では様々な方々にご支援頂きました。皆様のおかげで充実した日々を過ごし、多くを学ぶことができました。衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

池田 章浩

ローバースカウトってなんだろう。その疑問を解決するために今回の派遣に応募した。ボーイスカウト日本連盟ではローバースカウトを一貫教育の最終部門と位置付けている。一方で世界のスカウティングを参考にとすると、ローバースカウト部門のない国もある。そこで指導者ではなくローバースカウトを選んだ時、ローバースカウトの教育はどうあるべきで、ローバーリングとはどのようなものかについてずっと悩んでいたところ、World Scout Youth Involvement Policyという資料が存在していることを知り興味を持った。そこからactive citizenship, leadership, sustainability, diversity and inclusion, SDGs...と芋づる式に様々な資料にたどり着いた。これらの資料を目にしたとき、WOSMの掲げるVisionとローバースカウトが最終部門であることが関連すべきであることに気がついた。ローバースカウトがスカウト運動を通して得た叢智を自らの人生に活かし、社会の中で貢献していく姿を夢見た瞬間だった。スカウティングのためのスカウティングではなく、一人一人のよりよい人生のためのスカウティングであり、社会の中で役割を担い、価値を提供していく市民のためのスカウティングを目指したいと強く思った。この派遣を通して、日本のスカウティングは果たして健全な青少年教育としての役割を全うしているのかという疑問と課題意識が芽生えた。日本のスカウティングを通してactive citizenになることはできるのか、一人でも多くの人が本当のスカウティングに気がつくために何が必要なのか。この派遣が終わった後もローバースカウトとして活動していく機会は多いにあり、またローバースカウトを代表する立場であることを活かして多くの人にこの気持ちを伝えていきたい。また、この素晴らしいスカウト運動の大きな流れの一部分であることを大変嬉しく思うと同時に、スカウト運動の経験者として社会の中で活躍したいと強く思った。いつも心にチーフを巻き、ボーイスカウトの広告塔の一人として未来にはばたきたい。



枝迫 七海

ガールスカウト活動は16年続けているものの、ボーイスカウトはローバースカウトから始めたという新米の私だが、だからこそ、人一倍ボーイスカウトについて、ローバースカウトについて考えて活動してきたつもりである。

この派遣では、自分がローバースカウトとして日本でできることはたくさんあるということ、やりたいことにはローバースカウトとして積極的に挑戦すれば良いということが分かった。派遣参加前から分かっていたことだが、原隊の指導者としての活動だけの留まらずに、社会にもっと大きな影響を与えることもできるということに改めて感じた。

また、多方面からいただいていた活動の場やチャンスで得た経験を、この派遣でも活かせることができたと考える。実際、ガールスカウト日本連盟の青年代表として参加したアジア太平洋地域会議のおかげで、多様なスカウトたちと話をし、仲良くなることは容易であり、スカウト関連以外の各国の話も聞くことができた。しかし、聞き出すこと、自分の経験を語ることも自分の確固たる意見や日本派遣団員としての意見を述べるが大変難しかった。これは準備不足としか言いようがない。ドキュメントを読み理解しただけで満足し、改善点があるかを検討することをしなかった。ただ、SDGsやLeadership、Social Impact、Global challengesなどに関しては自分の意見を言うことができ、日本で今までに学んできたことや問題視していたことを海外のスカウトと共有でき、新たな意見も得て、さらに強いものにすることができたと思う。

このような国際イベントを通じて、世界中に同年代の仲間ができることは重要である。できることの幅や考えがぐっと広がり、深くなる。自分が海外で活動したいと思った時に助けてくれるのは彼らだろうし、その逆も然りである。また、後輩スカウトにボーイスカウトが世界的な団体であることの魅力も伝えることができる。他加盟連盟のスカウトから話を聞くことによって、彼らは、日本ではいろいろな事情から行動出来ないであろうこともスカウトとして行っていることを知り驚いた。それは単にすごい！羨ましい！だけではなく日本にも問題視されていないけれどやるべきことが多々あるし、新たな問題に気がつくこともあった。

とりあえず、地元から始めていくのが大切だと思うので、隊のプログラムとして世田谷区の課題を探し、同時に良いところも見つけ、観光マップの作成をしていこうと思う。とても貴重な経験をいただけたこと感謝いたします。サポートして下さったみなさま、ありがとうございました。



神生 柚貴

私はローバリングとは何だろうかとローバー隊に上進してからずっと考えて来た。私の団はローバー隊は大学に進学したスカウトが自動的に所属する所で、日本各地に散らばった各々が勝手に好きに活動してそれで終わりという状態だった。これはスカウト活動といえるのか、ただ自由な大学生が自由気ままに人生を楽しんでいるだけではないのか、と悩みつつも何もできず悩んでいた。そういう意味で今回の派遣では、文字通り世界中から集まった同じローバー世代の青年達と交流し意見を交えることで何かつかめるかもしれないという風に考えて参加を決意した。この時点でもう間違っていたと気づくのは会議が始まってからであった。リーダーシップ、SDGs、ジェンダー、ソーシャルインパクト等々…次から次へと変わっていく議題に全くついていけなかった。英語が出来なかったからではない。それは単なるいいわけに過ぎない。自分の意見が言えなかったのだ。私は大学で国際関係を主軸に学んでおり、他の大学生よりは国際問題について造形が深いと自分では思っていた。英語にしても海外で一人でやっていく程度には出来るし、ロシア語も多少出来る、自分は言語が得意だと思っていた。世界は甘くなかった。すべての議題で真剣な顔つきで議論する各国スカウトたちの顔を見て、ああここは学びに来る所ではないのだと初めて自分の間違いに気づいた。普段から青年たちが自分たちの国や地域で学び、議論したことを、そのうえで明確な自分の意見を持ってそれをぶつけ合う、会議だった。その中で、APRをはじめとした各地域のスカウトと交流を深め、地域や国によって多種多様な考え方や生活を目にし、共に生活することは本当に楽しかった。皆本当に親切にしてくれたし、自分も可能な限りそれに応えられたと思う。今回の派遣で思ったことは、自分を含めたすべてのスカウト、いや若者に、身近で起こっている小さな問題に目を向けてほしいと思った。本当に些細な事でいい、何か感じ取ってそして自分の意見を持ってほしい。誰にも左右されない自分の確固たる意見を持つことでactive citizenへの第一歩になるのだろうと思う。

今回この派遣に参加する機会を与えてくださったすべての方々に感謝いたします。お蔭さまでこの年で最高の類まれなる経験を得ることが出来ました。ここにお礼申し上げます。



10 日本代表団提言

私たち、第13回世界スカウトユースフォーラム派遣日本代表団一同は、本フォーラムにおける議論及び諸外国のスカウトとの意見交換を踏まえ、各機関に対し、以下の提案を行う。これらの提案が各機関において深く議論され、実施されることを心から望む。

2017年10月03日

10.1 -日本連盟への提言-

- 可能な限り早めの派遣公募を開始し、派遣内定者が派遣準備に向けて行動できるような環境を整えること。

[背景]

この世界スカウトユースフォーラム派遣やAPRスカウトユースフォーラムは他の類の海外派遣とは大きく異なり、入念な準備を絶対条件とする派遣である。準備がおろそかにされた場合、派遣団としての成果に影響するだけでなく、日本全体のローバー活動の発展のチャンスを逸することにも繋がりがかねない。

- 選考方法を見直し、WSYF前回派遣員とRCJ運営委員（可能であれば議長）を選考担当者に含めること。また、派遣の募集要項に前回派遣の報告書にアクセスできるURLを記載すること。

[背景]

WSYFは特殊な派遣であるが故に、選考方法の見直しが必要である。全国ローバースカウト会議との繋がりを強化するためにRCJ運営委員を、更には応募者の派遣への理解・適性を判断するためにWSYF前回派遣員を選考担当者に含めることを強く求める。

- 世界会議の青年代表及びオブザーバーを派遣団の事前集會に出席可能とすること。

[背景]

今回の派遣では世界会議におけるユースの意思決定への参画が十分では無かったと評価できる。世界会議代表団の事前集會に青年代表及びユースのオブザーバーが出席できなかったために、世界会議代表団とユースの議案に対する見解に差があった他、ユースの意見を世界会議での意思決定に反映する十分な機会が提供されていなかった。

- WOSMのVisionに合わせた環境を整備し、それに基づいた適切な教育プログラムを展開すること。また、その際に"Active Citizen"や"Social Impact"というようなキーワードを考慮すること。

[背景]

事前アンケートで明らかになった通り、WOSMのVision2023や三カ年計画に関する認知度は極めて低く、日本連盟の活動にこれらが適切に反映されているとは言い難い。スカウト人口を2023年までに1億人にするというVision2023の達成のために

も、WOSMのVisionに合わせた環境を整備し、それに基づいた適切な教育プログラムを展開することが必要であろう。

- **SDGsについて日本連盟として取り組むことができるよう、プログラムに盛り込むこと。**

[背景]

SDGsはユースフォーラムのみならず世界会議でも重要なトピックとして取り扱われたものである。事前アンケートでも明らかになった通り、日本ではSDGsの認知度が未だに低いようである。SDGsについての認知度を向上し、世界のスカウト達と共にSDGsの達成に取り組むためにも、日本連盟としてのアクションが必要不可欠である。

- **Messengers of PeaceやScouts of the World Awardのようなプログラムの全面的な導入を検討すること。また、それに応じて記章類の規約を見直すこと。**

[背景]

他国ではMessengers of PeaceやScouts of the World Awardのようなプログラムが全面的に導入され、それに対して真摯に取り組んでいるスカウトも少なくない。しかしながら我が国においてはこのプログラムの導入は為されていないも同然の状態である。ローバー世代においてはエディンバラ・アワードが導入されたものの、これに関しても指導者・スカウト共に理解が遅れている。SDGs関連の取り組みとしてもこれらのプログラムは世界的にも注目されており、ローバーリングの一つの可能性を示すためにもこれらのプログラムの導入が効果的である。

- **WOSMのビジョンに合わせて内容を再検討した上で、ローバースカウトハンドブックを再販すること。**

[背景]

現在ローバースカウトハンドブックは絶版となっており、その不在による影響が各地にて見受けられる。具体的には、スカウトのみならず指導者までもがローバリングを適切に理解しておらず、日本ではローバリングの理解が全国的に非常に遅れているという問題がある。そこで、ローバースカウトハンドブックを再販することが求められる。しかしながら当該書籍は90年代に出版されたものであるため、現在のWOSMのビジョンなどに合わせて内容を再検討し、時代に合った内容で再販する必要がある。

- **ガールスカウト日本連盟との連携を強めること。**

[背景]

13WSYFはWOSM主催のプログラムではあるが、他NSOの派遣団の中にはWAGGSに所属しているスカウトもいた。BP自身もガールスカウトとボーイスカウトが共に歩んでいくべきということをいろいろな場面で伝えていた。また、41WSCではWO

SMとWAGGGSの報告が共に行われる場面もあった。世界レベルではガールスカウトとボーイスカウトは歩み寄っているのである。ボーイスカウト日本連盟とガールスカウト日本連盟も互いの連携を強め、お互いに成長できるように努めたい。

○ **研修所のような指導者養成の場においてリーダーシップモデルを取り入れること。**

[背景]

日本連盟として”リーダーシップ”を重要視している以上、スカウトの成長の評価方法の一つとしてリーダーシップモデルの使用が効果的である。このモデルを使えばリーダーシップに必要な要素が可視化されるため、具体的にリーダーシップについての考察を深めること

○ **常設委員会の中に委員としてローバースカウトを取り入れること。**

[背景]

日本連盟におけるユースの参画を強化するために必要不可欠である。他国連盟においてはユースの委員やコミは至って普通のことであり、この点においても日本は青少年の意思決定への参画が遅れていると評価される。Youth Involvement Policyに記されている「Scouting is a Movement of young people, supported by adults; it is not a Movement for young people managed by adults only」を実現するための第一歩として、意思決定にて重要な役割を担っている常設委員会の中に委員としてローバースカウトを取り入れることは非常に重要である。

10.2 -事務局への提言-

○ **WOSMの発信した情報などを日本語で積極的に配信すること。**

[背景]

日本連盟に所属するスカウト及び指導者に対してWOSMの発信する情報は行き届いておらず、世界レベルの情報に非常に疎いのが現状である。世界との乖離に歯止めをかけるためにも、WOSMの発信した情報を翻訳して日本国内向けに再発信することが求められる。

○ **この報告書を一般公開し、広めること。**

[背景]

当該派遣報告書は、日本のローバー年代を中心に、日本における様々なスカウト教育プログラムに密接に関わるものである。また、旧来より世界スカウトユースフォーラムの認知度は非常に低く、適切な理解がなされていないようである。（事前に実施したアンケート結果を参照）したがって、この報告書を一般公開し、広めることが必要である。

10.3 -RCJへの提言-

- RCJの現行の組織構造を見直すこと。具体的にはユースアドバイザー制度を参考に、ブロック代表と運営委員を分けること。

[背景]

現状の組織構造の問題として運営委員の業務過多がある。一つの議員に運営委員の仕事のみならずブロックの仕事と所属する県連盟での仕事が集中してしまっている場合があるのだ。そこで当派遣団は、運営委員がよりスムーズでより幅広い業務をこなすため、ユースアドバイザー制度を提案する。具体的にはRCJ総会などで6名の運営委員を選挙にて選出（これに加えて前年度より2名が留任）する。また、ブロックの業務はブロックから選出されたブロック代表が主体となってこなし、運営委員との連携体制を築く。

- 国際フォーラムチームとの連携を強め、積極的な情報発信を行う。

[背景]

現在国際フォーラムチームは始動したばかりであることに加え、APRスカウトフォーラム側との連携がうまく取れずに空中分解している状態である。しかしながら次期派遣団への適切な引き継ぎの保障というチームの意義には異論の余地がなからう。また、このチームには世界レベルのフォーラムに参加したメンバーが集まっており、RCJ運営委員会のみならず構成員としても知るべき情報が収集されている。そこで、次回の派遣までに世界レベルのスカウティングに関する日本国内での理解を深めるためにも、RCJとして国際フォーラムチームとの連携を強め、積極的な情報発信を行うことが必要である。

- RCJ総会の議題に議題の背景についての文章を掲載する。

[背景]

現状では、RCJ総会の資料には議題だけが記載されており、その議題の背景の情報について十分な説明がなされていないため、議決権を持つ県代表が議題について十分な理解ができないことが多々あった。そこで、世界スカウト会議のドキュメントを参考に、RCJ総会の資料にも議題の背景についての説明を盛り込むことを提案する。

- 日本連盟の組織構造などを十分に理解するために図などを作成し、委員や県代表の理解力及び知見の向上に努めること。

[背景]

RCJの県代表はおるか運営委員でも日本連盟の組織構造などを十分に理解していない場合が多いようである。これを可視化する資料を作り、理解度を向上させることは個々人がローバー活動を展開していく上でも有意義であると考えられる。

10.4 -次回派遣団への推奨-

- International Nightのようなイベントへの準備をしっかりと行うこと。

[背景]

このような派遣中にはInternational Nightのような、各国に料理などを持ち寄ってブースを設置する機会があるのが常である。他国は念入りに準備をして来ることもあり、日本派遣団としても力を入れるべきである。

- 十分な事前準備を行うこと。取り扱う全てのドキュメントに目を通し、派遣団としての意見をまとめてから派遣に臨むこと。また、事前にインターネット上で参加者同士の意見交換の場が開設される場合があるので、そのような場にも積極的に参画すること。

[背景]

この派遣は十分な事前準備を大前提としている派遣であり、準備になおざりにした場合には議論にキャッチアップできず、殆ど派遣団としての成果も得られないであろう。派遣前もアンテナを張って情報を収集すると共に、可能な限り入念に準備をすることを強く推奨する。

- RCJと連携を強めること。派遣団のみの意見を発信するのではなく、事前アンケートなどを駆使して、可能な限り多くのRCJ構成員の意見を収集した上で派遣での意思決定に参画すること

[背景]

日本代表として派遣に臨む以上、可能な限り幅広いローバーたちの意見を収集した上での意思決定が必要である。

- 国際フォーラムチームなどを駆使して派遣で得た知見や情報の還元に努めること

[背景]

派遣自体は帰国して報告書を提出すれば終了するかもしれないが、派遣員としての義務はそれでは終わらないのではないだろうか。派遣で得た知見や情報を可能な限り幅広く共有することが求められる。

- 日本国旗と日本連盟旗を持っていくこと

[背景]

カルチュアルナイトやインターナショナルナイトの看板にしたり、集合写真で広げたり、絵になるところで写真を撮ったりと何かと使える。日本の国旗は白い紙と赤いペンがあれば作成可能だが(今派遣でもそのように対処した)持っていくに越したことはない。

東京連盟	木村直登	愛知連盟	池田章浩
東京連盟	枝迫七海	兵庫連盟	神生柚貴

11. 派遣終了後の動きについて

11.1 報告書提出後の動きについて

報告書提出後には各地で報告会を開くなど、派遣の内容について幅広く発信していく所存である。現在の時点で予定されている報告会は以下の通りである。

- ・新多磨地区9月度協議会 9月24日 立川市女性センターアイム 担当：木村
- ・RCJフォーラム2017 10月8日 大阪府立少年自然の家 担当：池田、神生



-基本情報-

名称	世界スカウトユースフォーラム
日時	2017年8月6日 - 10日
場所	アゼルバイジャン共和国 ガバラ市
会場	カフカスリゾートホテル
規模	参加者236名、参加NSO 116
テーマ	Dream.. Believe.. Act.. !
派遣員	Delegate: 木村 直登 Observer: 池田 章浩 枝迫 七海 神生 柚貴

8/6 到着
チェックイン
E-voting説明

8/7 開会式
国際旗生成
YA候補プレゼン

8/8 セッション
YA選挙
ミカ年計画報告

8/9 セッション
議題修正案検討
Cultural Night

8/10 セッション
決議事項採択
閉会式

ユースフォーラムって何するの？

世界スカウトユースフォーラムでは世界中から代表の青年が集い、主に以下のようなことをします。他にもセッションの時間などもあります。

- ・6名のユースアドバイザーの選出
- ・世界会議の議案に対する修正案の提案・議決
- ・世界のユースとしての提言の作成

同時にこのフォーラムは青少年の意思決定過程への参画の方法をユースたちに示す役割も担っています。

世界スカウト会議との関係性について

・ユースフォーラム参加者の多くは会議終了後バクーで開催された世界スカウト会議に参加しました。

・フォーラムで決議された内容は、世界スカウト会議に参考資料として提示され、各国NSO代表がその意見を採用して会議に提案することで議論に移されます。

・つまり青少年の意見としてのフォーラムの決議は、各国NSO代表の支持を受けなければ、決議されてWOSM規約に反映されることはありません。

関連図



YA=ユースアドバイザー WSC=世界スカウト委員
WSYF=ユースフォーラム WSCConf=世界スカウト会議
NSO=各国スカウト連盟

重要な議論テーマ

ACTIVE CITIZEN

Youth Involvement

Vision 2023 **SOCIAL IMPACT**

Diversity Inclusion

Leadership

TRIENNIAL PLAN

Sustainability







11.2 国際フォーラムチームについて

国際フォーラムチームとは、第8回APRスカウトユースフォーラム派遣メンバーによって必要性が唱えられ、その後RCJの下部組織として教育推進会議にて認められた組織である。WSYFやAPRスカウトユースフォーラムのような国際フォーラムにおける適切な引き継ぎを行うことを目的とした組織である。

事後集会において、国際フォーラムチームの意義、及びその役割について話し合った。当派遣団として一致した見解を以下に整理する。

・国際フォーラムチームは、次期派遣団に対する適切な引き継ぎを保障するための組織である。派遣後に派遣団は解体されてしまうため、そのような枠組みがない場合、過去の派遣員からの直接的な引き継ぎのハードルが著しく上がってしまう可能性がある。そこで適切な引き継ぎを実現するためにも組織的な枠組みが必要となる。

・国際フォーラムチームはWSYFの派遣員のみによってではなく、APRSYF派遣員も構成員となっている。チームとしての役割を發揮するためには、WSYF側とAPRSYF側の連携が必要不可欠である。

・具体的な国際フォーラムチームの今後の運用については、APRSYF側とのSkype会議を設け、討議する予定である。

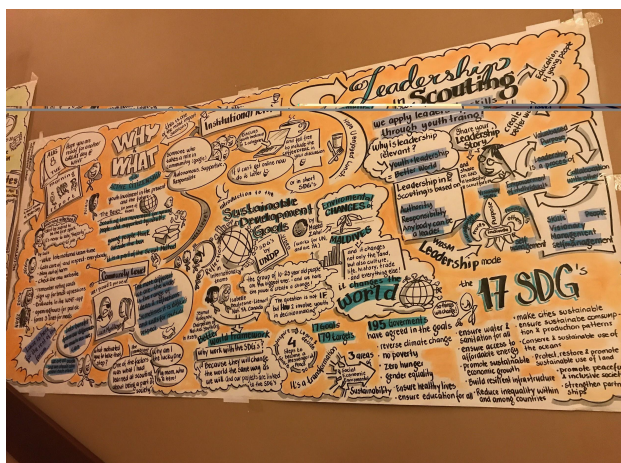
12. 総括

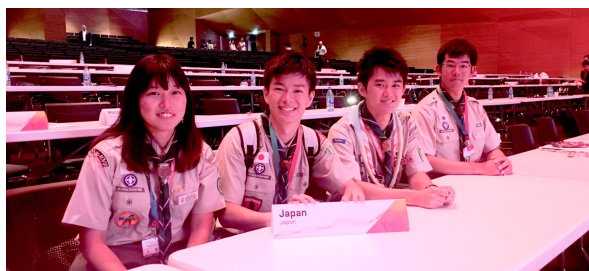
12.1 おわりに

前回の派遣団が最も苦しんだのが事前の情報不足であるようだ。幸いにも今回の派遣団には前回の派遣員が含まれていたために、事前の情報不足のような障壁に苦しむことはなかった。しかしながら、次回派遣団の成果を左右するとも言える「情報共有」を行うか否かは我々派遣団に委ねられていると言っても過言ではなからう。次回派遣団に有意義な派遣の日々を過ごして成果をあげてもらうため、そしてWSYFやWSConf、及びその他WOSMなどで話し合われていることをあまり知らない人たちのためにも、我々はこの報告書を可能な限り詳細に執筆した。この報告書が様々な人々の助けとなり、読者の方々の更なるスカウティングの発展に寄与できればこれ以上の喜びはない。

最後に、派遣に際してお世話になった派遣員の団・地区・県連盟の方々、岩崎さんを始めとする日本連盟事務局の方々、世界スカウト委員中野まりさん、そして世界スカウト会議派遣代表団の皆様に改めて深く御礼申し上げます。

12.2 記録写真





12.3 参考

公式ウェブサイト 「World Scout Conference 2017」 <http://wsc2017.az>

Facebookページ 「World Scout Conference and Youth Forum 2017 - Azerbaijan」

<https://www.facebook.com/wsc2017/?fref=ts>

Twitterアカウント 「@wsc2017az」

日本派遣団Facebookページ <https://www.facebook.com/第13回世界スカウトユースフォーラム派遣-775700472609357/>

日本派遣団Twitter 「@13wsyf_jp」

Google Drive <https://drive.google.com/drive/folders/0B9Ywt290dkSfv3M3MzA0eFJZ0Xc>



公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

住所 〒 113-8517 東京都文京区本郷1-34-3
電話 03-5805-2561 (代表)
ファクシミリ 03-5805-2901 (代表)
URL <http://www.scout.or.jp/>
2017年11月発行